

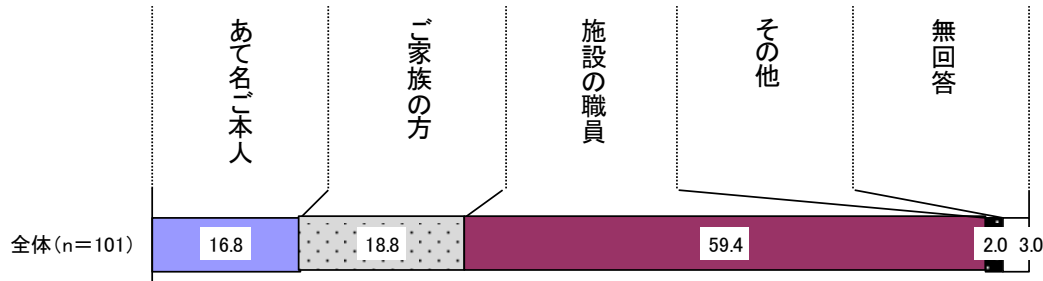
第3章

施設に入所している方を対象にした 調査

1 本人について

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(〇はひとつ)



調査の回答者は、「施設の職員」が 59.4%と 6 割近くを占めており、次いで「ご家族の方」が 18.8%、「あて名ご本人」が 16.8%となっています。

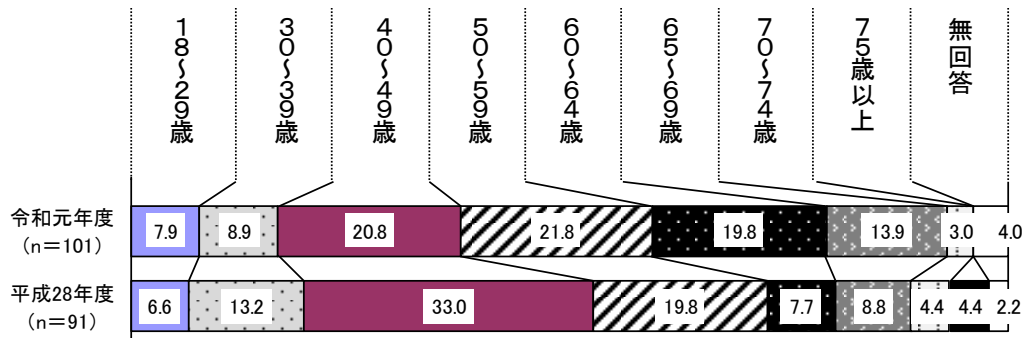
【クロス集計】障害別

(単位:%)		n	あて名ご本人	ご家族の方	施設の職員	その他	無回答
全体		101	16.8	18.8	59.4	2.0	3.0
障害別	肢体不自由	31	29.0	35.5	32.3	3.2	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	79	12.7	21.5	63.3	0.0	2.5
	発達障害	12	0.0	8.3	91.7	0.0	0.0
	精神障害	7	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0

障害別にみると、“精神障害”と“難病(特定疾病)”以外の障害では、「ご家族の方」又は「施設の職員」が最も高くなっており、回答数が10件以上の“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では「ご家族の方」が、“知的障害”と“発達障害”では「施設の職員」が最も高く、特に“発達障害”では「施設の職員」が91.7%と9割を超えています。

(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお聞きします。令和元年10月1日現在の満年齢をお書きください。



障害者本人の年齢は、「50～59歳」が21.8%、「40～49歳」が20.8%、「60～64歳」が19.8%と2割前後が続いています。

平成28年度と比較すると、「40～49歳」が12.2ポイント下がっており、反対に「65～69歳」が12.1ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

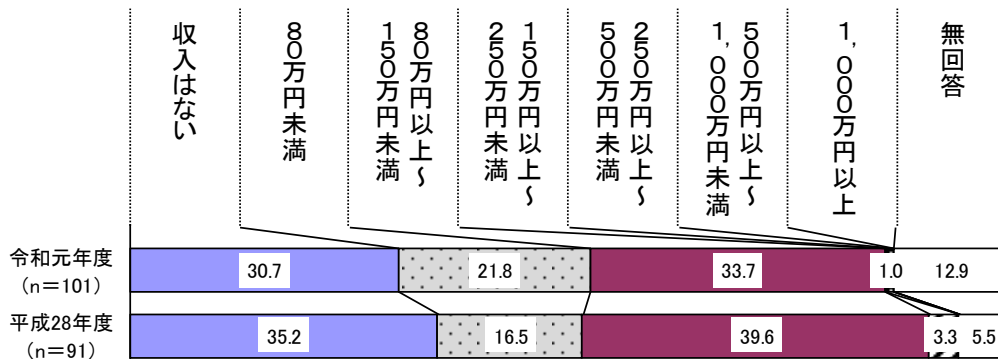
(単位:%)		n	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 64歳	65歳～ 69歳	70歳～ 74歳	75歳 以上	無回答
全体		101	7.9	8.9	20.8	21.8	7.9	11.9	9.9	6.9	4.0
障害別	肢体不自由	31	6.5	6.5	25.8	16.1	6.5	19.4	6.5	12.9	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
	知的障害	79	6.3	10.1	21.5	22.8	7.6	11.4	10.1	6.3	3.8
	発達障害	12	8.3	25.0	41.7	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
	精神障害	7	0.0	0.0	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、「視覚障害」以外のいずれの障害も「40～49歳」か「50～59歳」が最も高くなっています。回答数が10件以上の「肢体不自由」と「発達障害」では「40～49歳」が最も高く、特に「発達障害」では41.7%と4割を超えています。

同じく回答数が10件以上の「音声・言語・そしゃく機能障害」と「知的障害」では「50～59歳」が最も高くなっています。

(3) 年収

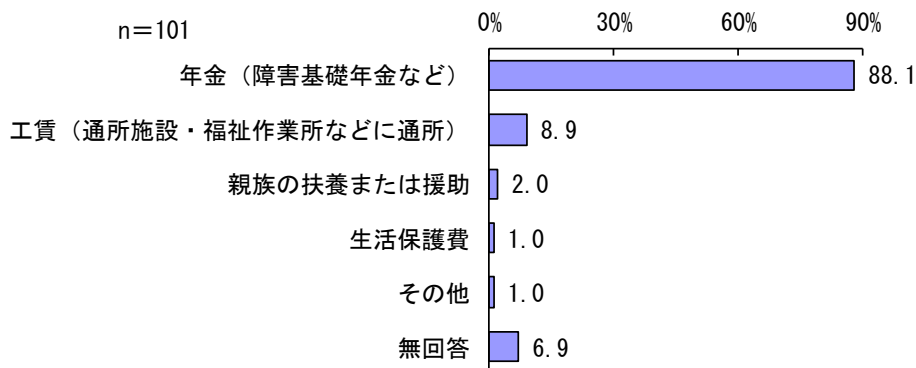
問3 **あなたご本人**の年収額をお聞きします。税金等を差し引く前の額でお答えください。
(○はひとつ)



障害者本人の年収は、「80万円以上～150万円未満」が33.7%、「収入はない」が30.7%と3割を超えており、次いで「80万円未満」が21.8%と、150万円未満で8割半ばを超えています。
平成28年度と比較すると、「収入はない」が4.5ポイント下がっています。

(4) 収入内訳

問4 **あなたご本人**の主な収入の内訳をお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

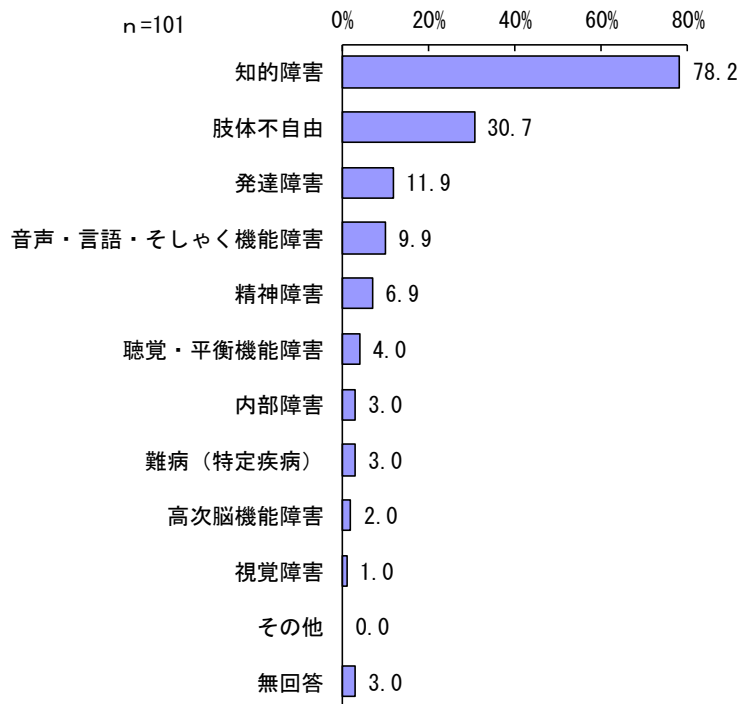


収入の内訳は、「年金 (障害基礎年金など)」が88.1%と9割近くで最も高く、次いで「工賃 (通所施設・福祉作業所などに通所)」が8.9%、「親族の扶養または援助」が2.0%と続いています。

2 障害の状況について

(1) 障害の種別

問5 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

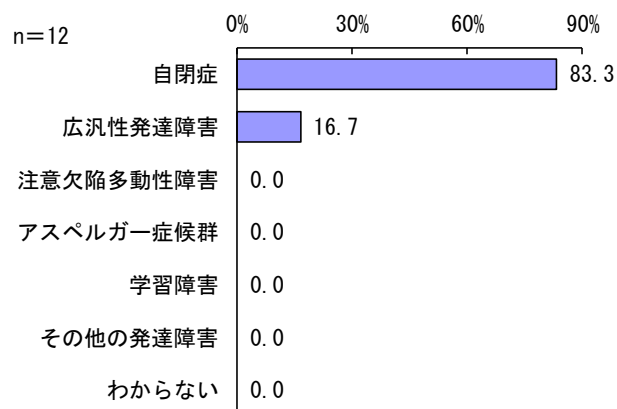


障害の種類は、「知的障害」が78.2%と8割近くで高く、次いで「肢体不自由」が30.7%、「発達障害」が11.9%、「音声・言語・そしゃく機能障害」が9.9%と続いています。

(2) 発達障害診断名

問5で「発達障害(自閉症、アスペルガー症候群等)」と回答された方にお聞きします。

問5-1 発達障害の診断名をお答え下さい。



発達障害の診断名は、「自閉症」が83.3%と8割を超えており、「広汎性発達障害」が16.7%となっています。

(3) 難病疾病名

問5で「難病(特定疾病)」と回答された方にお聞きします

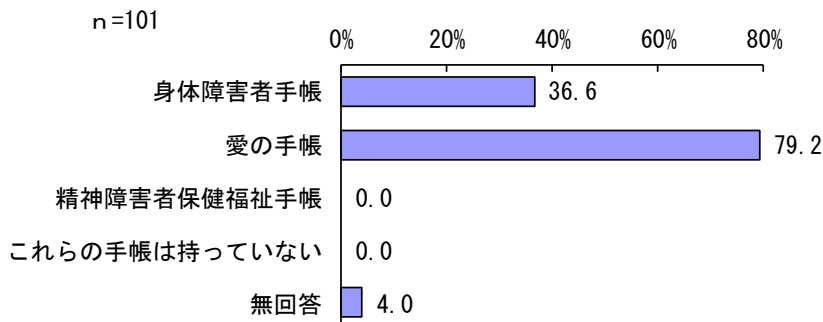
問5-2 病名(東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名)等をお答え下さい。

難病の疾病名は下表の通りです。

疾病名	件数
脊髄性筋萎縮症(SMA)	1
ハンチントン病	1

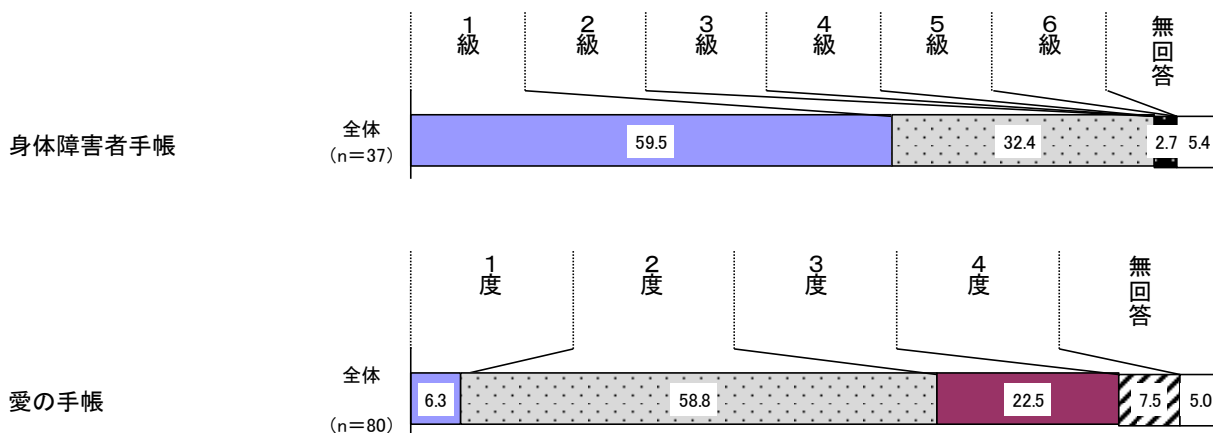
(4) 手帳の種類

問6 あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



手帳の所持状況は、「愛の手帳」が79.2%と約8割と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が36.6%となっています。

【各等級別】

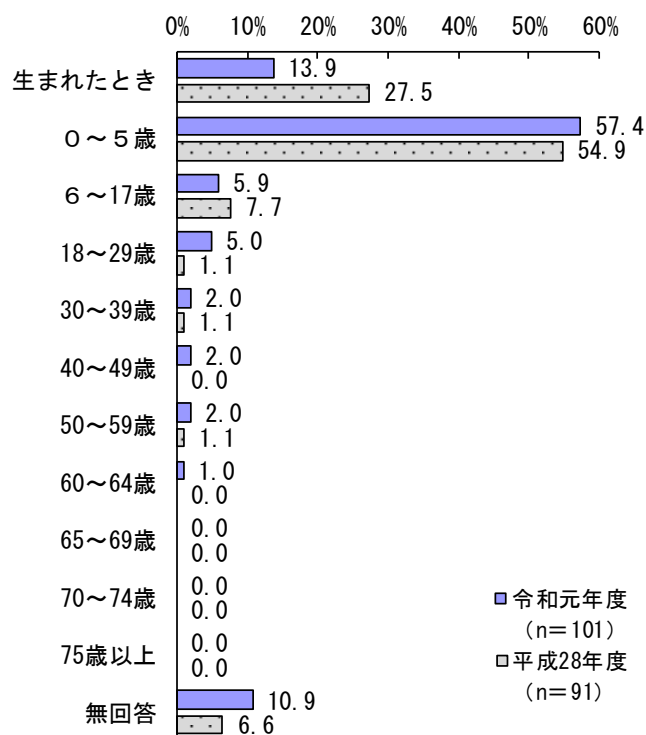


身体障害者手帳の等級は、「1級」が59.5%と最も高く、次いで「2級」が32.4%、「5級」が2.7%と続いています。

愛の手帳の等級は、「2度」が58.8%と最も高く、次いで「3度」が22.5%、「4度」が7.5%と続いています。

(5) 障害に最初に気づいた時期

問7 あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きます。(〇はひとつ)



本人や家族が障害に気づいた時期は、「0～5歳」が57.4%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「生まれたとき」が13.9%と、5歳までで全体の7割を超えています。

平成28年度と比較すると、「生まれたとき」が13.6ポイント、「6～17歳」が1.8ポイント下がっている以外は、いずれの項目も平成28年度より上がっています。

【クロス集計】障害別

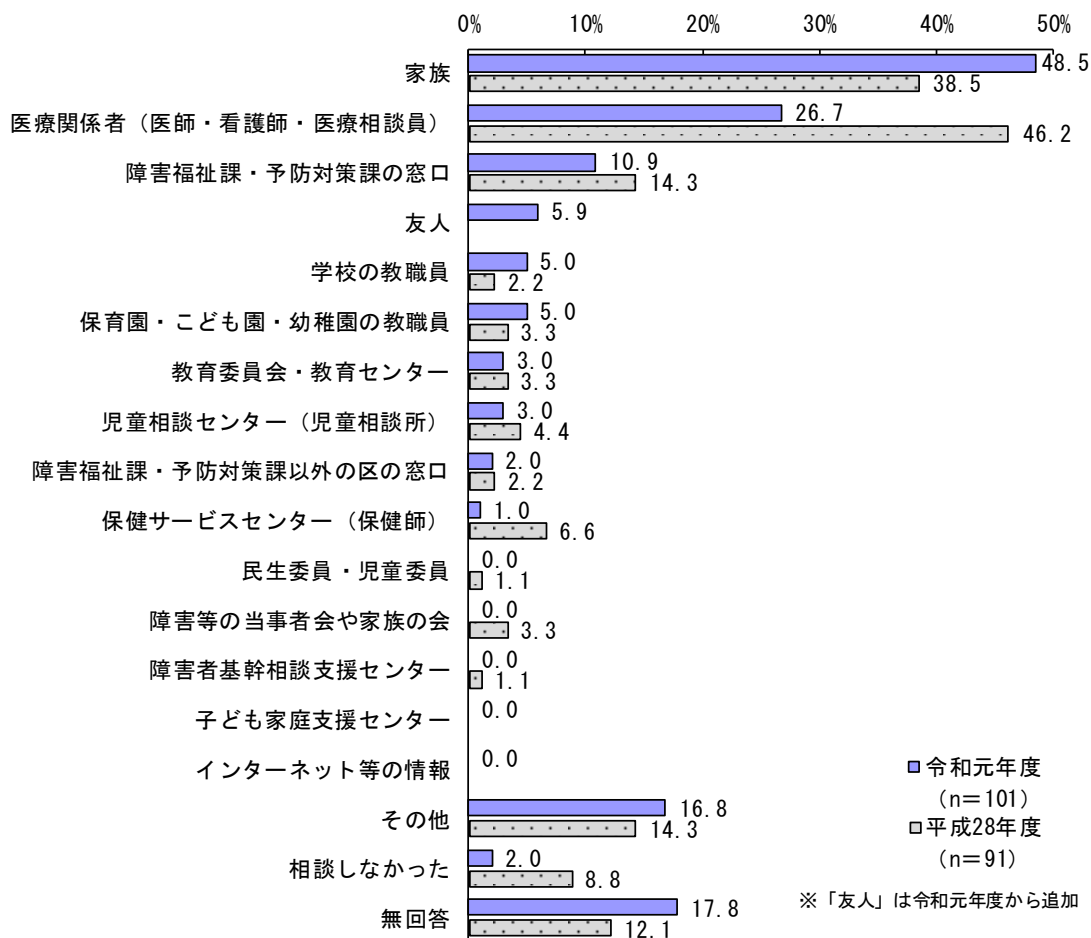
(単位: %)	n	生まれたとき	0～5歳	6～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳
全体	101	13.9	57.4	5.9	5.0	2.0	2.0
肢体不自由	31	16.1	41.9	3.2	12.9	0.0	6.5
音声・言語・そしゃく機能障害	10	30.0	50.0	10.0	0.0	0.0	10.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
知的障害	79	16.5	63.3	7.6	1.3	1.3	0.0
発達障害	12	8.3	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障害	7	0.0	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0

(単位: %)	n	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
全体	101	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	10.9
肢体不自由	31	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0	9.7
音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
内部障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	79	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.1
発達障害	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障害	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“高次脳機能障害”、“難病（特定疾病）”以外のいずれの障害でも「0～5歳」が最も高く、特に“発達障害”は91.7%と9割を超えています。

(6) 障害に気づいたときの相談相手

問8 障害や心身の不調に気づいたとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)



障害に気づいたときの相談相手は、「家族」が48.5%と5割近くで最も高く、次いで「医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)」が26.7%、「障害福祉課・予防対策課の窓口」が10.9%と続いています。それ以外の項目はいずれも1割を切っています。

平成28年度と比較すると、「家族」が10.0ポイント大きく上がっており、「医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)」が19.5ポイント大きく下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	家族	友人	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当 事者会や家 族の会
全体	101	48.5	5.9	5.0	5.0	0.0	0.0
障害別							
肢体不自由	31	41.9	9.7	3.2	6.5	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	10	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
内部障害	3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
知的障害	79	48.1	5.1	6.3	6.3	0.0	0.0
発達障害	12	33.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
精神障害	7	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	医療関係者（医 師・看護師・医 療相談員）	障害福祉 課・予防対 策課の窓口	障害福祉課・ 予防対策課以 外の区の窓口	保健サービ スセンター （保健師）	障害者基幹 相談支援セ ンター	子ども家庭 支援セン ター
全体	101	26.7	10.9	2.0	1.0	0.0	0.0
障害別							
肢体不自由	31	38.7	12.9	3.2	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	10	40.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
知的障害	79	25.3	10.1	1.3	1.3	0.0	0.0
発達障害	12	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障害	7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

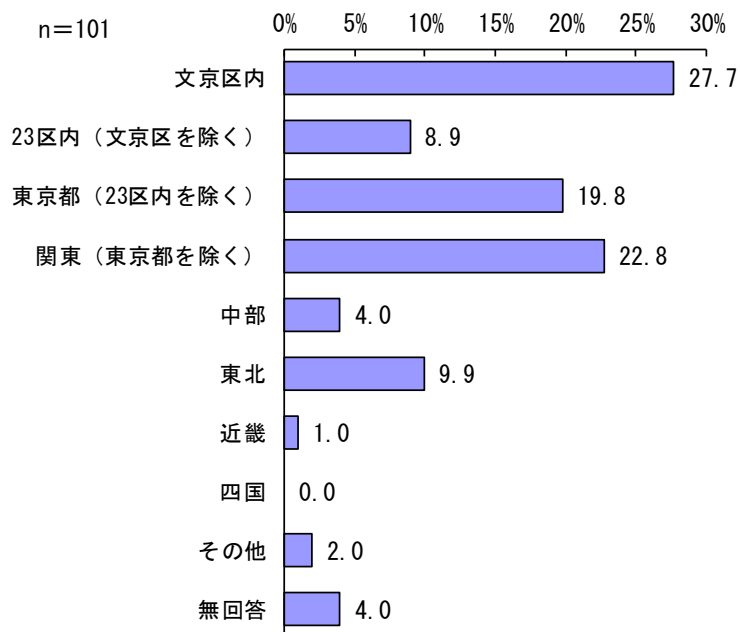
(単位:%)	n	教育委員 会・教育セ ンター	児童相談セ ンター（児 童相談所）	インター ネット等の 情報	その他	相談しな かった	無回答
全体	101	3.0	3.0	0.0	16.8	2.0	17.8
障害別							
肢体不自由	31	3.2	0.0	0.0	22.6	3.2	16.1
音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
内部障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	79	3.8	3.8	0.0	15.2	1.3	17.7
発達障害	12	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	25.0
精神障害	7	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	28.6
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、“視覚障害”以外のいずれの障害でも「家族」が最も高くなっています。

3 施設入所について

(1) 施設の所在地域

問9 あなたが現在入所している施設のある地域をお聞きます。(〇はひとつ)

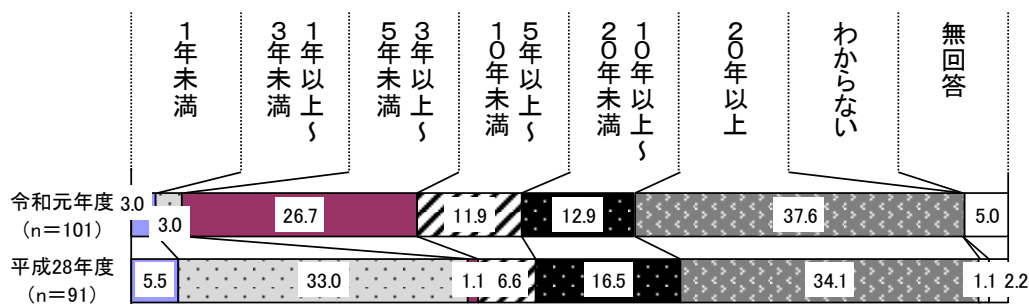


現在入所している施設のある地域は、「文京区内」が27.7%と2割半ばを超えて最も高く、次いで「関東 (東京都を除く)」が22.8%と、「東京都 (23区内を除く)」が19.8%と続いています。

関東以外の地域では「東北」が9.9%と高くなっています。

(2) 施設入所年数

問 10 あなたが現在の施設に入所してからの年数をお聞きます (〇はひとつ)



施設入所年数は、「20年以上」が37.6%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「3年以上~5年未満」が26.7%、「10年以上~20年未満」が12.9%、「5年以上~10年未満」が11.9%と続いています。

平成28年度と比較すると、平成28年度に「1年以上~3年未満」と回答された方が「3年以上~5年未満」に移行しているため、割合が逆転しています。

【クロス集計】年代別

(単位:%)		n	1年未満	1年以上~3年未満	3年以上~5年未満	5年以上~10年未満	10年以上~20年未満	20年以上~30年未満	30年以上	わからない	無回答
全体		101	3.0	3.0	26.7	11.9	12.9	16.8	20.8	0.0	5.0
年代別	18歳以上40歳未満	17	5.9	11.8	41.2	11.8	17.6	5.9	5.9	0.0	0.0
	40歳以上65歳未満	51	3.9	2.0	21.6	13.7	13.7	21.6	19.6	0.0	3.9
	65歳以上75歳未満	22	0.0	0.0	31.8	4.5	9.1	18.2	31.8	0.0	4.5
	75歳以上	7	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	42.9	0.0	14.3

年代別にみると、“75歳以上”以外のいずれの障害も「3年以上~5年未満」が最も高く、特に「18歳以上40歳未満」では41.2%と4割を超えています。

“40歳以上65歳未満”では「3年以上~5年未満」と「20年以上~30年未満」がともに21.6%と2割を超えて最も高くなっています。

“75歳以上”では、「30年以上」が42.9%と4割を超えて最も高くなっています。

【クロス集計】障害別・地域別

(単位:%)		1年未満	1年以上 ~ 3年未満	3年以上 ~ 5年未満	5年以上 ~ 10年未満	10年以上 ~ 20年未満	20年以上 ~ 30年未満	30年以上	わからない	無回答	
	n										
全体	101	3.0	3.0	26.7	11.9	12.9	16.8	20.8	0.0	5.0	
障害別	肢体不自由	31	6.5	3.2	25.8	12.9	16.1	12.9	16.1	0.0	6.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	視覚障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
	知的障害	79	1.3	1.3	31.6	10.1	13.9	16.5	22.8	0.0	2.5
	発達障害	12	0.0	0.0	8.3	25.0	16.7	25.0	25.0	0.0	0.0
	精神障害	7	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域別	文京区内	28	0.0	3.6	92.9	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	55.6	33.3	0.0	0.0
	東京都（23区内を除く）	20	10.0	10.0	0.0	10.0	30.0	10.0	30.0	0.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	4.3	0.0	0.0	26.1	17.4	21.7	26.1	0.0	4.3
	関東以外	17	0.0	0.0	5.9	17.6	11.8	29.4	35.3	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が10件以上の“肢体不自由”と“知的障害”では「3年以上～5年未満」が最も高くなっています。

同じく回答数が10件以上の“音声・言語・そしゃく機能障害”と“発達障害”では、「30年以上」が最も高くなっています。

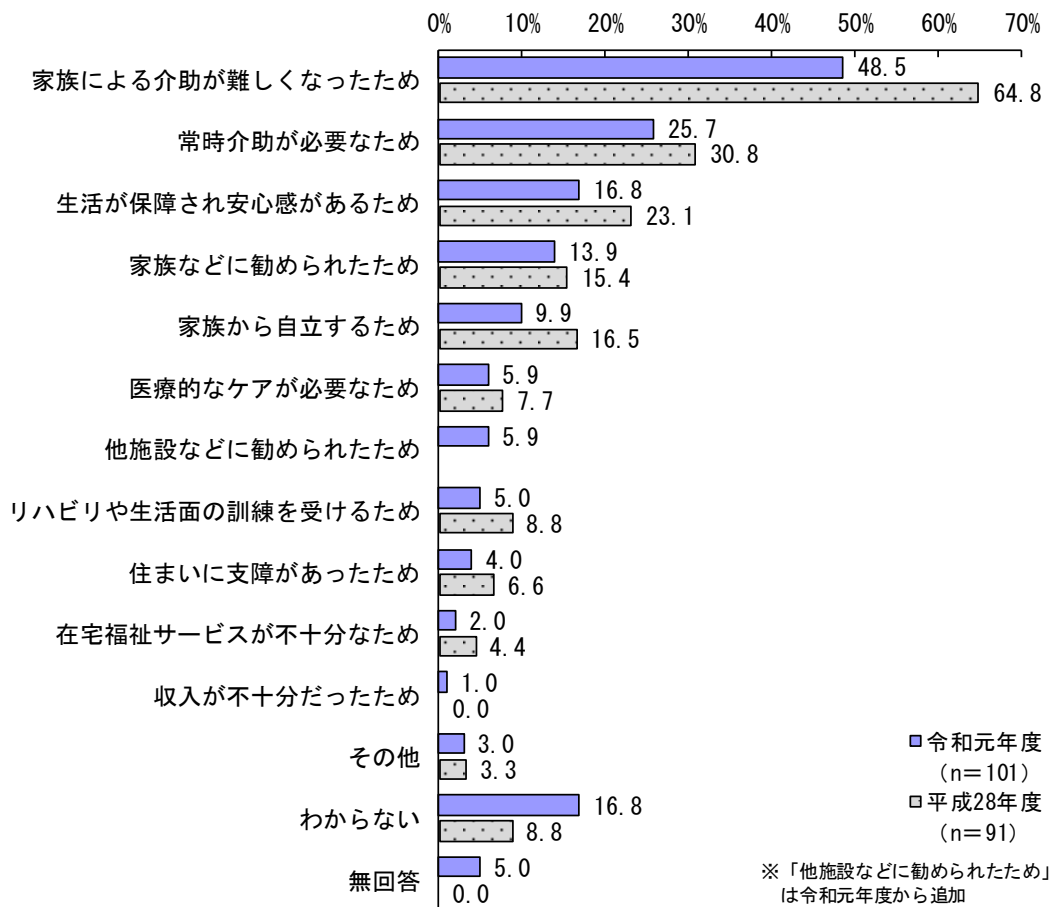
また、“発達障害”では「5年以上～10年未満」、「20年以上～30年未満」、「30年以上」がいずれも25.0%と最も高くなっています。

地域別にみると、“文京区内”では「3年以上～5年未満」が92.9%と9割を超えて最も高くなっています。

“文京区内”と“23区内（文京区を除く）”以外のいずれの地域も、「30年以上」が最も高くなっています。

(3) 施設入所の理由

問 11 あなたが現在の施設に入所することに決めた理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



現在の施設に入所した理由は、「家族による介助が難しくなったため」が48.5%と5割近くで最も高く、次いで「常時介助が必要なため」が25.7%、「生活が保障され安心感があるため」が16.8%、「家族などに勧められたため」が13.9%と続いています。それ以外の項目はいずれも1割を切っています。

一方、「わからない」が16.8%と1割半ばを超えています。

平成28年度と比較すると、「収入が不十分だったため」と「わからない」以外の項目はいずれも平成28年度より下がっており、特に「家族による介助が難しくなったため」は16.3ポイント大きく下がっています。

【クロス集計】障害別・地域別

(単位:%)	n	家族から自立するため	リハビリや生活面の訓練を受けるため	生活が保障され安心感があるため	家族による介助が難しくなったため	常時介助が必要なため	医療的なケアが必要なため	住まいに支障があったため	
全体	101	9.9	5.0	16.8	48.5	25.7	5.9	4.0	
障害別	肢体不自由	31	16.1	6.5	9.7	61.3	45.2	16.1	9.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	20.0	0.0	10.0	60.0	30.0	10.0	10.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	25.0	25.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	100.0	66.7	33.3	33.3
	知的障害	79	12.7	6.3	19.0	46.8	21.5	3.8	2.5
	発達障害	12	8.3	8.3	16.7	50.0	8.3	0.0	0.0
	精神障害	7	0.0	0.0	28.6	14.3	42.9	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	0.0	0.0	0.0	100.0	33.3	33.3	33.3
地域別	文京区内	28	28.6	7.1	21.4	35.7	14.3	3.6	3.6
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	0.0	22.2	44.4	22.2	11.1	11.1
	東京都（23区内を除く）	20	5.0	5.0	15.0	60.0	25.0	15.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	0.0	4.3	13.0	65.2	26.1	4.3	8.7
	関東以外	17	5.9	5.9	17.6	35.3	47.1	0.0	0.0

(単位:%)	n	在宅福祉サービスが不十分なため	収入が不十分だったため	家族などに勧められたため	他施設などに勧められたため	その他	わからない	無回答	
全体	101	2.0	1.0	13.9	5.9	3.0	16.8	5.0	
障害別	肢体不自由	31	3.2	0.0	16.1	3.2	0.0	6.5	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	79	1.3	1.3	12.7	7.6	2.5	20.3	3.8
	発達障害	12	0.0	0.0	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3
	精神障害	7	0.0	0.0	42.9	14.3	14.3	14.3	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域別	文京区内	28	3.6	3.6	10.7	14.3	3.6	35.7	0.0
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	東京都（23区内を除く）	20	0.0	0.0	5.0	5.0	5.0	15.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	4.3	0.0	8.7	4.3	0.0	8.7	8.7
	関東以外	17	0.0	0.0	17.6	0.0	5.9	11.8	5.9

障害別にみると、「視覚障害」、「精神障害」、「高次脳機能障害」以外のいずれの障害でも「家族による介助が難しくなったため」が最も高くなっています。

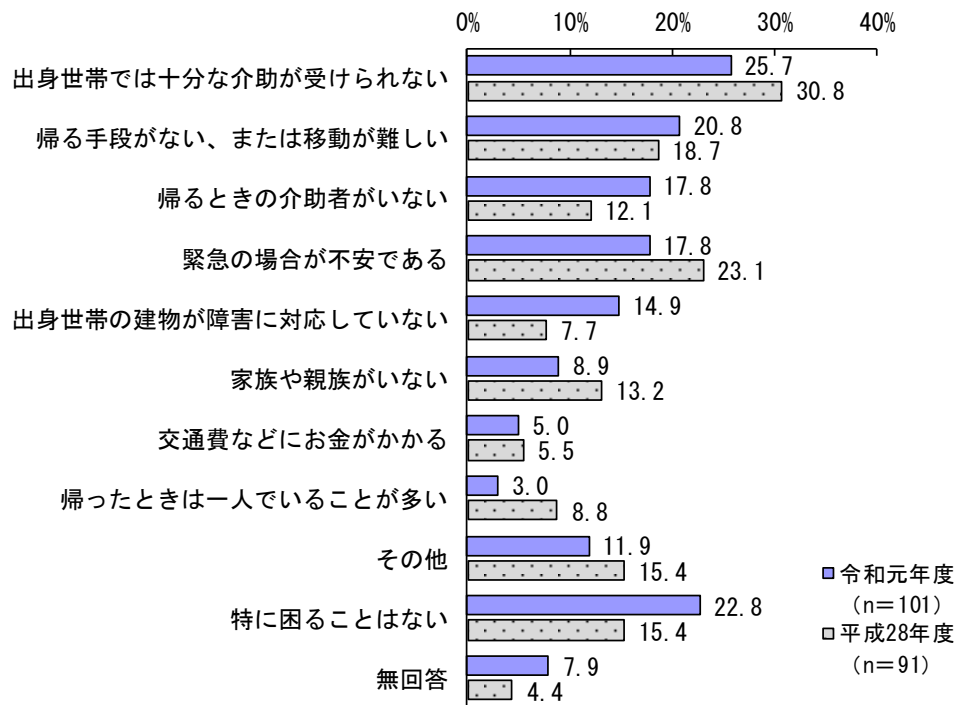
また、「視覚障害」と「発達障害」以外のいずれの障害でも「常時介助が必要なため」が2割を超えて高くなっています。

地域別にみると、いずれの地域でも「家族による介助が難しくなったため」が最も高くなっています。

4 施設での生活について

(1) 帰省時の困りごと

問 12 あなたが一時、出身世帯（施設に入る前に住んでいた家）に帰るときなどに困ることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



出身世帯に一時帰るときの困りごとは、「出身世帯では十分な介助が受けられない」が25.7%と2割半ばで最も高く、次いで「帰る手段がない、または移動が難しい」が20.8%、「帰るときの介助者がいない」と「緊急の場合が不安である」がともに17.8%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は22.8%と2割を超えています。

平成28年度と比較すると、「出身世帯の建物が障害に対応していない」が7.2ポイント、「帰るときの介助者がいない」が5.7ポイント上がっており、他方、「緊急の場合が不安である」が5.3ポイント、「出身世帯では十分な介助が受けられない」が5.1ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別・地域別

(単位: %)	n	帰る手段がない、または移動が難しい	帰るときの介助者がいない	交通費などにお金がかかる	出身世帯の建物が障害に対応していない	出身世帯では十分な介助が受けられない	帰ったときは一人が多い	
全体	101	20.8	17.8	5.0	14.9	25.7	3.0	
障害別	肢体不自由	31	38.7	22.6	6.5	35.5	29.0	3.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	50.0	10.0	10.0	40.0	40.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	25.0	25.0	25.0	75.0	75.0	0.0
	内部障害	3	66.7	33.3	33.3	100.0	100.0	0.0
	知的障害	79	19.0	16.5	6.3	13.9	26.6	2.5
	発達障害	12	16.7	8.3	8.3	0.0	25.0	0.0
	精神障害	7	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	66.7	33.3	0.0	33.3	66.7	33.3
地域別	文京区内	28	21.4	14.3	3.6	7.1	10.7	7.1
	23区内（文京区を除く）	9	22.2	33.3	0.0	11.1	33.3	11.1
	東京都（23区内を除く）	20	25.0	5.0	5.0	20.0	35.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	21.7	26.1	4.3	17.4	30.4	0.0
	関東以外	17	11.8	11.8	11.8	17.6	35.3	0.0

(単位: %)	n	家族や親族がいない	緊急の場合が不安である	その他	特に困ることはない	無回答	
全体	101	8.9	17.8	11.9	22.8	7.9	
障害別	肢体不自由	31	9.7	25.8	12.9	6.5	6.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	50.0	20.0	0.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	25.0	75.0	0.0	25.0	0.0
	内部障害	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
	知的障害	79	8.9	17.7	8.9	27.8	6.3
	発達障害	12	8.3	8.3	41.7	8.3	8.3
	精神障害	7	28.6	28.6	0.0	28.6	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
地域別	文京区内	28	10.7	25.0	3.6	42.9	0.0
	23区内（文京区を除く）	9	22.2	33.3	22.2	0.0	0.0
	東京都（23区内を除く）	20	0.0	20.0	30.0	20.0	5.0
	関東（東京都を除く）	23	4.3	8.7	4.3	17.4	17.4
	関東以外	17	17.6	11.8	11.8	17.6	5.9

障害別にみると、回答数が10件以上の“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では「帰る手段がない、または移動が難しい」が最も高く、特に“音声・言語・そしゃく機能障害”では5割となっています。

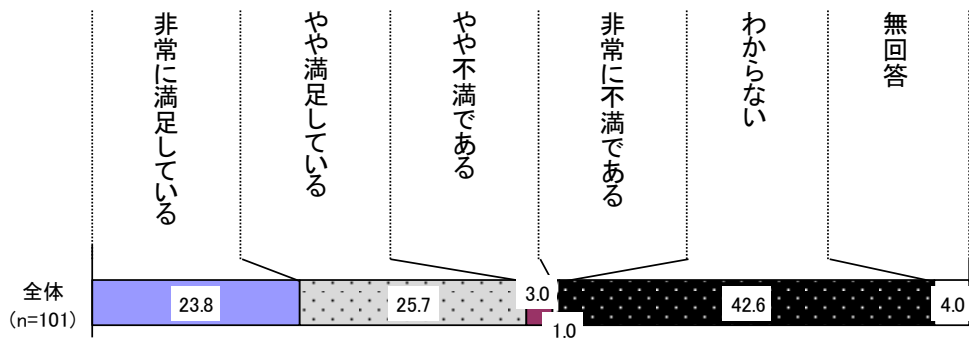
同じく回答数が10件以上の“知的障害”では「出身世帯では十分な介助が受けられない」が26.6%と2割半ばを超えて最も高くなっています。

地域別にみると、「特に困ることはない」を除くと、“文京区”と“23区内（文京区を除く）”では「緊急の場合が不安である」が最も高くなっています。

また、“文京区”以外のいずれの地域でも「出身世帯では十分な介助が受けられない」が3割を超えて最も高くなっています。

(2) 施設生活の満足度

問 13 あなたは、施設での生活に満足していますか。(○はひとつ)



施設生活の満足度は、「非常に満足している」が23.8%、「やや満足している」が25.7%とともに2割を超えて高く、約5割が満足しています。反対に不満の割合は5%以下となっています。

一方、「わからない」が42.6%と4割を超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

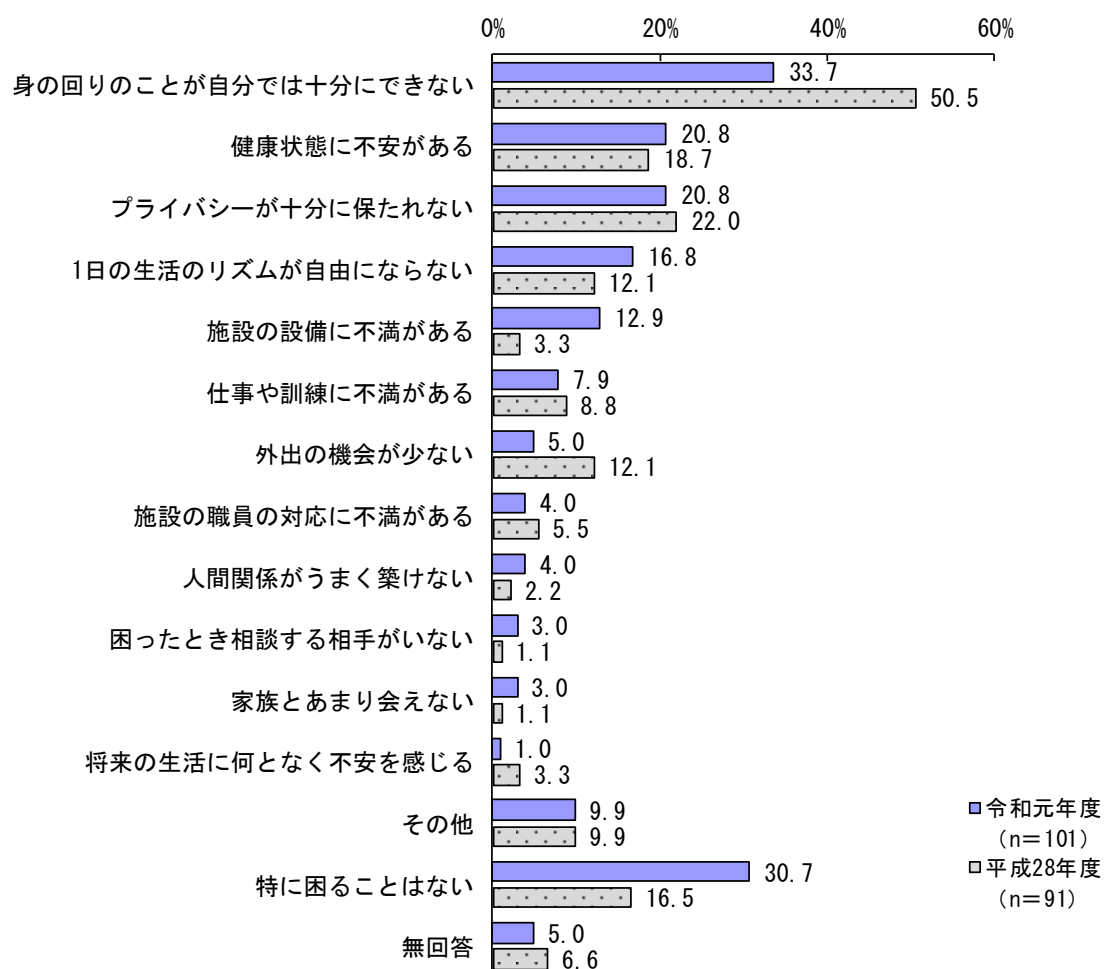
(単位:%)		n	非常に満足している	やや満足している	やや不満である	非常に不満である	わからない	無回答
全体		101	23.8	25.7	3.0	1.0	42.6	4.0
年代別	18歳以上40歳未満	17	23.5	11.8	0.0	0.0	64.7	0.0
	40歳以上65歳未満	51	29.4	31.4	2.0	0.0	31.4	5.9
	65歳以上75歳未満	22	13.6	22.7	4.5	0.0	59.1	0.0
	75歳以上	7	14.3	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0
障害別	肢体不自由	31	41.9	19.4	6.5	0.0	32.3	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	視覚障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	内部障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	知的障害	79	24.1	24.1	3.8	1.3	43.0	3.8
	発達障害	12	0.0	25.0	0.0	0.0	66.7	8.3
	精神障害	7	14.3	57.1	0.0	0.0	28.6	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0

年代別にみると、「わからない」を除くと、「18歳以上40歳未満」では「非常に満足している」が23.5%と最も高くなっています。それ以外のいずれの年代も「やや満足している」が最も高く、特に「75歳以上」では42.9%と4割を超えています。

障害別にみると、「わからない」を除くと、「発達障害」と「精神障害」以外のいずれの障害でも「非常に満足している」が最も高くなっています。

(3) 現在の生活での困りごと

問 14 あなたが現在の暮らしの中で、困ることや不安に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



現在の生活での困りごとは、「身の回りのことが自分では十分にできない」が33.7%と3割を超えて最も高く、次いで「健康状態に不安がある」と「プライバシーが十分に保たれない」がともに20.8%、「1日の生活のリズムが自由にならない」が16.8%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は30.7%と3割を占めています。

平成28年度と比較すると、「身の回りのことが自分では十分にできない」が16.8ポイント大きく下がっており、反対に「特に困ることはない」が14.2ポイント、「施設の設定に不満がある」が9.6ポイント大きく上がっています。

【クロス集計】障害別・地域別

(単位:%)		n	身の回りのことが自分では十分にできない	健康状態に不安がある	プライバシーが十分に保たれない	1日の生活のリズムが自由にならない	施設の設備に不満がある	仕事や訓練に不満がある	外出の機会が少ない	施設の職員への対応に不満がある
全体		101	33.7	20.8	12.9	4.0	3.0	1.0	20.8	4.0
障害別	肢体不自由	31	38.7	32.3	12.9	9.7	3.2	0.0	19.4	6.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	50.0	40.0	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	100.0	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	内部障害	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	79	35.4	21.5	13.9	3.8	3.8	1.3	24.1	5.1
	発達障害	12	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	精神障害	7	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
地域別	文京区内	28	35.7	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	23区内(文京区を除く)	9	44.4	33.3	22.2	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0
	東京都(23区内を除く)	20	35.0	15.0	10.0	5.0	0.0	5.0	35.0	5.0
	関東(東京都を除く)	23	30.4	8.7	8.7	4.3	4.3	0.0	17.4	4.3
	関東以外	17	23.5	11.8	17.6	5.9	5.9	0.0	23.5	5.9

(単位:%)		n	人間関係がうまく築けない	困ったとき相談する相手がいない	家族とあまり会えない	将来の生活に何となく不安を感じる	その他	特に困ることはない	無回答
全体		101	5.0	3.0	16.8	7.9	9.9	30.7	5.0
障害別	肢体不自由	31	6.5	3.2	12.9	12.9	12.9	19.4	3.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	0.0	0.0	20.0	40.0	10.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	知的障害	79	3.8	2.5	15.2	8.9	10.1	30.4	3.8
	発達障害	12	8.3	0.0	8.3	0.0	25.0	16.7	16.7
	精神障害	7	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	28.6	14.3
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
地域別	文京区内	28	0.0	7.1	3.6	10.7	7.1	50.0	3.6
	23区内(文京区を除く)	9	22.2	0.0	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0
	東京都(23区内を除く)	20	0.0	0.0	20.0	5.0	20.0	20.0	5.0
	関東(東京都を除く)	23	8.7	0.0	30.4	0.0	4.3	21.7	8.7
	関東以外	17	5.9	5.9	5.9	23.5	17.6	35.3	0.0

障害別にみると、「視覚障害」と「難病(特定疾病)」以外のいずれの障害でも「身の回りのことが自分では十分にできない」が最も高くなっています。

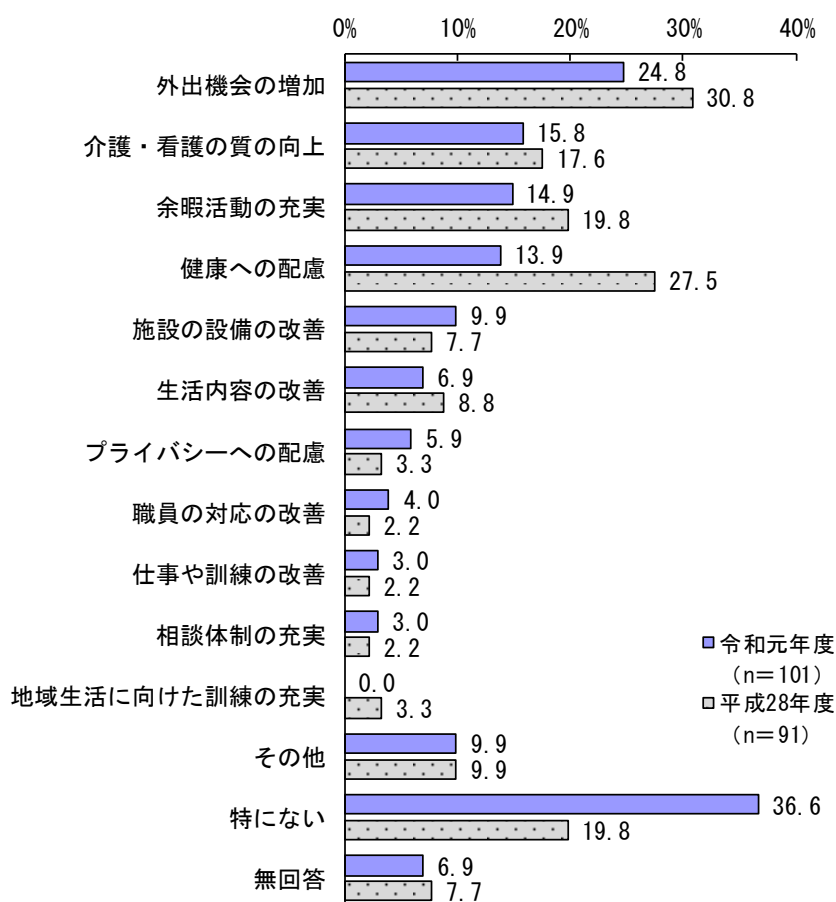
また、「視覚障害」と「発達障害」以外のいずれの障害でも「健康状態に不安がある」が2割を超えて高くなっています。

地域別にみると、「特に困ることはない」を除くと、いずれの地域でも「身の回りのことが自分では十分にできない」が最も高くなっています。

また、「東京都(23区内を除く)」と「関東以外」では、「外出の機会が少ない」が「身の回りのことが自分では十分にできない」と同じ割合で最も高くなっています。

(4) 入所施設への要望

問 15 あなたは、現在入所している施設に対して、どのような要望がありますか。(あてはまるものすべてに○)



入所施設への要望は、「外出機会の増加」が24.8%と2割半ばで最も高く、次いで「介護・看護の質の向上」が15.8%、「余暇活動の充実」が14.9%、「健康への配慮」が13.9%と1割台が続いています。

一方、「特にない」は36.6%と3割半ばを超えています。

平成28年度と比較すると、「健康への配慮」が13.6ポイント、「外出機会の増加」が6.0ポイント、「余暇活動の充実」が4.9ポイント下がっており、反対に「特にない」が16.8ポイント大きく上がっています。

【クロス集計】障害別・地域別

(単位:%)		n	介護・看護の質の向上	健康への配慮	プライバシーへの配慮	生活内容の改善	施設の設備の改善	仕事や訓練の改善	外出機会の増加
全体		101	15.8	13.9	5.9	6.9	9.9	3.0	24.8
障害別	肢体不自由	31	29.0	12.9	12.9	9.7	9.7	6.5	22.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	内部障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	知的障害	79	15.2	15.2	6.3	7.6	10.1	2.5	27.8
	発達障害	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	精神障害	7	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6
	高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
地域別	文京区内	28	10.7	17.9	3.6	3.6	0.0	0.0	21.4
	23区内(文京区を除く)	9	44.4	33.3	11.1	11.1	33.3	0.0	33.3
	東京都(23区内を除く)	20	20.0	10.0	0.0	10.0	15.0	10.0	35.0
	関東(東京都を除く)	23	4.3	0.0	8.7	8.7	13.0	0.0	21.7
	関東以外	17	11.8	11.8	11.8	5.9	5.9	5.9	23.5

(単位:%)		n	職員の対応の改善	余暇活動の充実	相談体制の充実	地域生活に向けた訓練の充実	その他	特にない	無回答
全体		101	4.0	14.9	3.0	0.0	9.9	36.6	6.9
障害別	肢体不自由	31	3.2	12.9	3.2	0.0	9.7	29.0	9.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
	知的障害	79	5.1	19.0	3.8	0.0	10.1	36.7	3.8
	発達障害	12	0.0	8.3	8.3	0.0	25.0	33.3	16.7
	精神障害	7	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
地域別	文京区内	28	0.0	14.3	3.6	0.0	3.6	50.0	3.6
	23区内(文京区を除く)	9	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	東京都(23区内を除く)	20	10.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	10.0
	関東(東京都を除く)	23	4.3	4.3	0.0	0.0	4.3	47.8	8.7
	関東以外	17	5.9	23.5	11.8	0.0	23.5	29.4	0.0

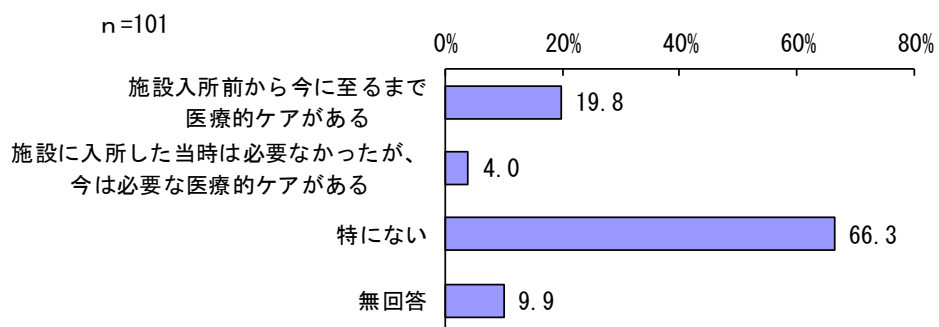
障害別にみると、「特に困ることはない」を除くと、回答数が10件以上の“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では「介護・看護の質の向上」が最も高く、特に“肢体不自由”では29.0%と3割近くとなっています。

同じく回答数が10件以上の“知的障害”と“発達障害”では「外出機会の増加」が2割半ばを超えて最も高くなっています。

地域別にみると、「特に困ることはない」を除くと、“23区内(文京区を除く)”を除くいずれの地域でも「外出機会の増加」が最も高くなっています。

(5) 医療的ケアの有無

問 16 あなたが必要とする医療的ケアがありますか。(あてはまるものすべてに○)

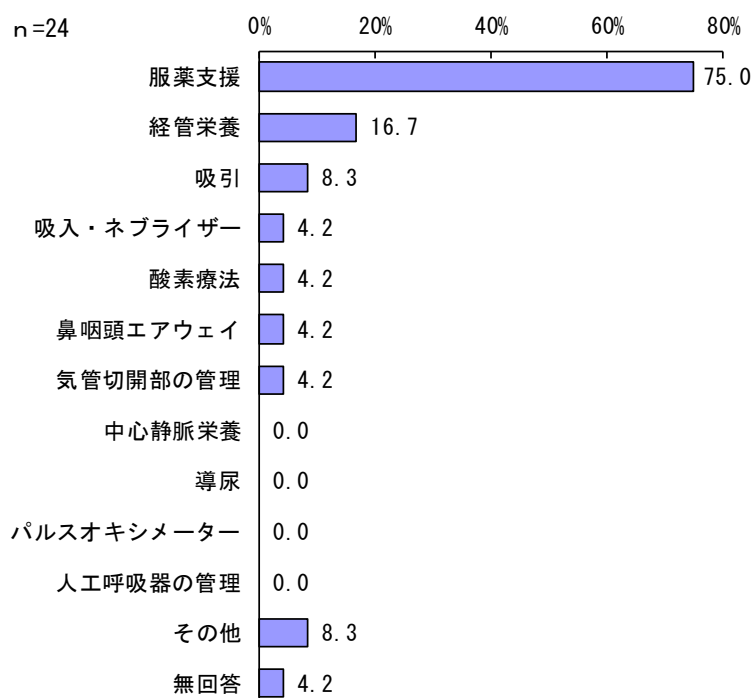


医療的ケアの有無は、「施設入所前から今に至るまで医療的ケアがある」が 19.8%と約 2 割、「施設に入所した当時は必要なかったが、今は必要な医療的ケアがある」が 4.0%となっており、「特にない」は 66.3%と 6 割半ばを超えています。

(6) 必要な医療的ケア

問 16 で「必要な医療的ケアがある」と回答された方にお聞きします。

問 17 あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。(あてはまるものすべてに○)



必要とする医療的ケアは、「服薬支援」が75.0%と7割半ばで最も高く、次いで「経管栄養」が16.7%と続いています。それ以外の項目はいずれも1割を切っています。

【クロス集計】年代別

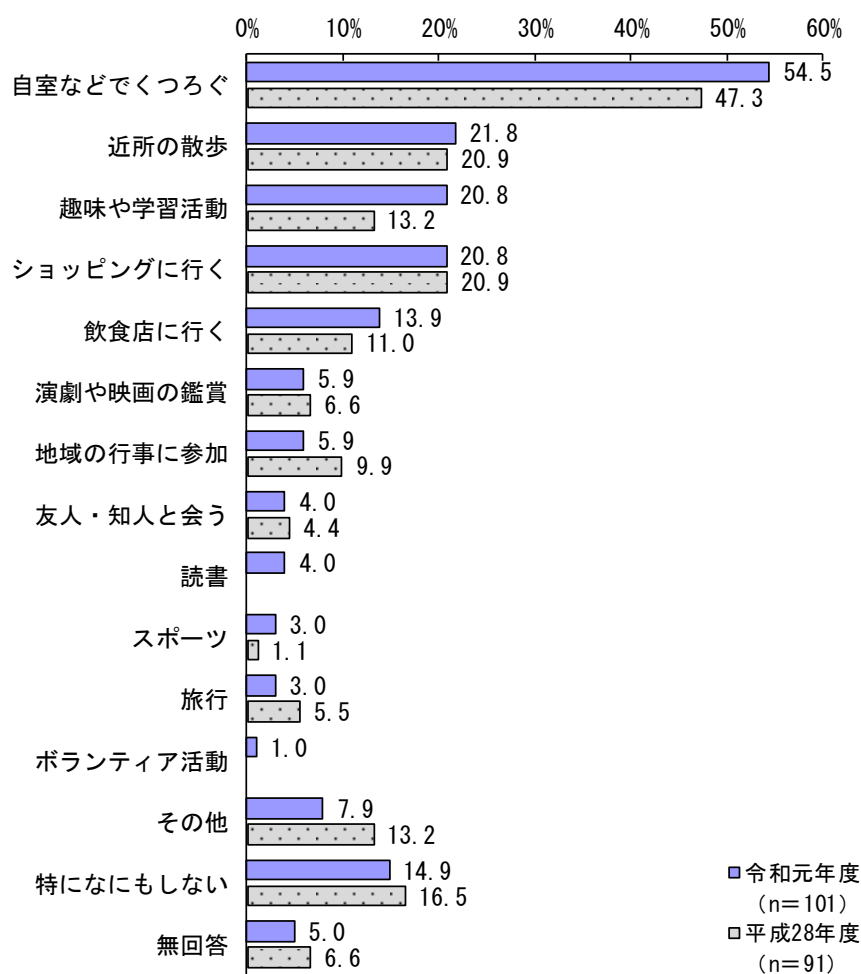
(単位: %)		n	服薬支援	吸引	吸入・ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法
全体	24	75.0	8.3	4.2	16.7	0.0	0.0	4.2	
18歳以上40歳未満	2	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	
40歳以上65歳未満	14	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
65歳以上75歳未満	7	71.4	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	
75歳以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(単位: %)		n	鼻咽頭エアウェイ	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	無回答
全体	24	4.2	0.0	4.2	0.0	8.3	4.2	
18歳以上40歳未満	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	
40歳以上65歳未満	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	
65歳以上75歳未満	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
75歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

年代別にみると、“75歳以上”を除くいずれの年代も“服薬支援”が5割を超えて高くなっています。

(7) 休日の過ごし方

問 18 あなたは、休日など時間に余裕があるとき、主にどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)



休日の過ごし方は、「自室などでくつろぐ」が 54.5%と 5 割半ば近くで最も高く、次いで「近所の散歩」が 21.8%、「趣味や学習活動」と「ショッピングに行く」がともに 20.8%と続いています。

一方、「特になにもしない」は 14.9%と 1 割半ばを占めています。

平成 28 年度と比較すると、全体的な傾向はあまり変わりませんが、「趣味や学習活動」が 7.6 ポイント、「自室などでくつろぐ」が 7.2 ポイント上がっており、「地域の行事に参加」が 4.0 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別・地域別

(単位:%)		n	趣味や学 習活動	スポーツ	ボランティ ア活動	友人・知 人と会う	演劇や映 画の鑑賞	ショッピング に行く	飲食店に 行く	読書
全体		101	20.8	3.0	1.0	4.0	5.9	20.8	13.9	4.0
障害別	肢体不自由	31	16.1	3.2	0.0	3.2	6.5	19.4	9.7	3.2
	音声・言語・そしやく機能障害	10	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	79	21.5	2.5	1.3	3.8	6.3	22.8	16.5	5.1
	発達障害	12	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	33.3	25.0	8.3
	精神障害	7	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
地域別	文京区内	28	10.7	3.6	0.0	3.6	10.7	28.6	32.1	7.1
	23区内(文京区を除く)	9	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0
	東京都(23区内を除く)	20	10.0	10.0	5.0	0.0	10.0	35.0	20.0	0.0
	関東(東京都を除く)	23	30.4	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	4.3
	関東以外	17	23.5	0.0	0.0	5.9	0.0	11.8	0.0	5.9

(単位:%)		n	旅行	自室などで くつろぐ	地域の 行事に 参加	近所の 散歩	その他	特にな にもし ない	無回答
全体		101	3.0	54.5	5.9	21.8	7.9	14.9	5.0
障害別	肢体不自由	31	3.2	41.9	3.2	29.0	16.1	16.1	9.7
	音声・言語・そしやく機能障害	10	10.0	30.0	0.0	20.0	20.0	30.0	20.0
	視覚障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
	知的障害	79	2.5	58.2	7.6	22.8	7.6	13.9	3.8
	発達障害	12	8.3	66.7	8.3	33.3	0.0	8.3	0.0
	精神障害	7	0.0	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
地域別	文京区内	28	3.6	46.4	10.7	25.0	7.1	14.3	10.7
	23区内(文京区を除く)	9	0.0	66.7	0.0	44.4	0.0	22.2	0.0
	東京都(23区内を除く)	20	5.0	50.0	5.0	35.0	10.0	10.0	5.0
	関東(東京都を除く)	23	4.3	56.5	4.3	4.3	8.7	21.7	0.0
	関東以外	17	0.0	64.7	5.9	11.8	11.8	11.8	0.0

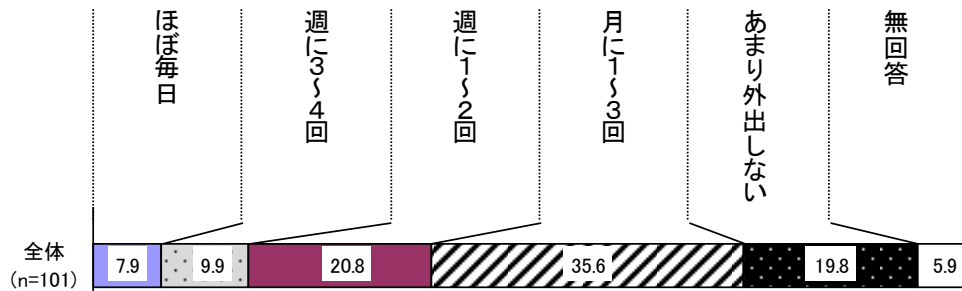
障害別にみると、「高次脳機能障害」以外のいずれの障害でも「自室などでくつろぐ」が最も高くなっています。

「肢体不自由」、「知的障害」、「発達障害」では、「ショッピングに行く」や「近所の散歩」も高くなっています。

地域別にみると、いずれの地域でも「自室などでくつろぐ」が最も高くなっています。

(8) 外出の頻度

問 19 あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。(〇はひとつ)



外出の頻度は、「月に1~3回」が35.6%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「週に1~2回」が20.8%、「あまり外出しない」が19.8%と2割前後が続いています。

【クロス集計】 障害別

(単位: %)		n	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	あまり外出しない	無回答
全体		101	7.9	9.9	20.8	35.6	19.8	5.9
障害別	肢体不自由	31	0.0	12.9	22.6	22.6	29.0	12.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	10.0	0.0	20.0	40.0	30.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
	知的障害	79	7.6	11.4	20.3	41.8	13.9	5.1
	発達障害	12	25.0	8.3	16.7	33.3	16.7	0.0
	精神障害	7	0.0	28.6	0.0	71.4	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	難病(特定疾病)	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3

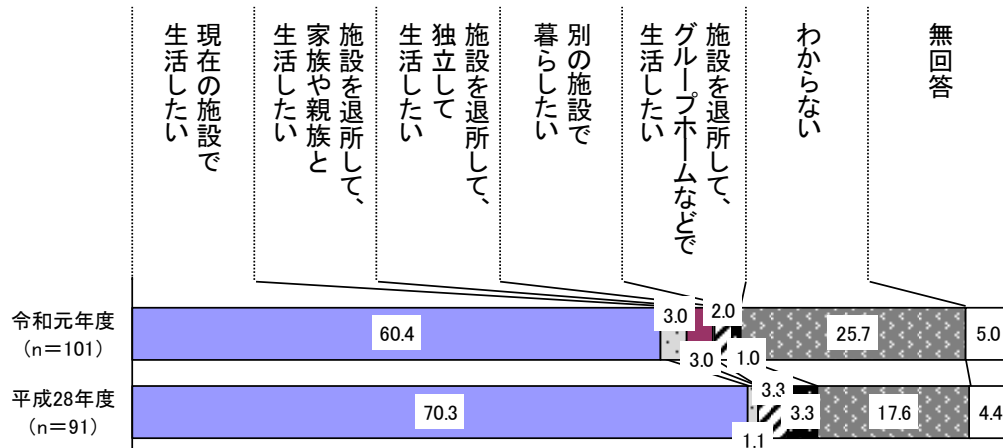
障害別にみると、いずれの障害でも、「月に1~3回」か「あまり外出しない」が最も高くなっています。

“発達障害”では、「ほぼ毎日」が25.0%と他の障害に比べ高くなっています。

5 今後の暮らし方について

(1) 今後希望する生活

問 20 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(〇はひとつ)



今後希望する生活は、「現在の施設で生活したい」が60.4%と6割を占め最も高く、次いで「施設を退所して、家族や親族と生活したい」と「施設を退所して、独立して生活したい」がともに3.0%と続いています。

一方、「わからない」は25.7%と2割半ばを超えています。

平成28年度と比較すると、「現在の施設で生活したい」が9.9ポイント下がっており、「施設を退所して、家族や親族と生活したい」と「施設を退所して、独立して生活したい」がやや上がっています。

【クロス集計】年代別

	n	現在の施設で生活したい	施設を退所して、家族や親族と生活したい	施設を退所して、独立して生活したい	施設を退所して、グループホームなどで生活したい	別の施設で暮らしたい	わからない	無回答
(単位:%)								
全体	101	60.4	3.0	3.0	1.0	2.0	25.7	5.0
18歳以上40歳未満	17	35.3	0.0	5.9	0.0	0.0	47.1	11.8
40歳以上65歳未満	51	70.6	5.9	2.0	0.0	2.0	15.7	3.9
65歳以上75歳未満	22	54.5	0.0	4.5	4.5	0.0	36.4	0.0
75歳以上	7	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

年代別にみると、“18歳以上40歳未満”以外のいずれの年代でも「現在の施設で生活したい」が最も高く、“18歳以上40歳未満”でも3割半ばで高くなっています。

【クロス集計】障害別・地域別・入所年数別

(単位: %)		n	現在の施設 で生活した い	施設を退所し て、家族や親 族と生活した い	施設を退所し て、独立して 生活したい	施設を退所し て、グループ ホームなどで 生活したい	別の施設 で暮らし たい	わからな い	無回答
全体	101	60.4	3.0	3.0	1.0	2.0	25.7	5.0	
障害別									
肢体不自由	31	77.4	3.2	0.0	3.2	0.0	16.1	0.0	
音声・言語・そしゃく機能障害	10	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	
視覚障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
聴覚・平衡機能障害	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
内部障害	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
知的障害	79	57.0	3.8	3.8	1.3	2.5	27.8	3.8	
発達障害	12	33.3	0.0	0.0	0.0	8.3	33.3	25.0	
精神障害	7	71.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
難病(特定疾病)	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
地域別									
文京区内	28	60.7	0.0	0.0	0.0	0.0	35.7	3.6	
23区内(文京区を除く)	9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
東京都(23区内を除く)	20	50.0	5.0	5.0	0.0	5.0	25.0	10.0	
関東(東京都を除く)	23	69.6	4.3	8.7	0.0	0.0	13.0	4.3	
関東以外	17	47.1	5.9	0.0	5.9	5.9	35.3	0.0	
入所年数別									
1年未満	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
1年以上～3年未満	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
3年以上～5年未満	27	55.6	3.7	0.0	0.0	0.0	37.0	3.7	
5年以上～10年未満	12	75.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	8.3	
10年以上～20年未満	13	53.8	7.7	7.7	0.0	7.7	23.1	0.0	
20年以上～30年未満	17	58.8	5.9	5.9	0.0	5.9	23.5	0.0	
30年以上	21	61.9	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	9.5	

障害別にみると、「視覚障害」以外のいずれの障害でも「現在の施設で生活したい」が最も高くなっています。

“精神障害”では「施設を退所して、家族や親族と生活したい」と「施設を退所して、独立して生活したい」といった施設を退所して地域生活を送る希望がともに14.3%となっています。

地域別にみると、いずれの地域でも「現在の施設で生活したい」が最も高くなっています。

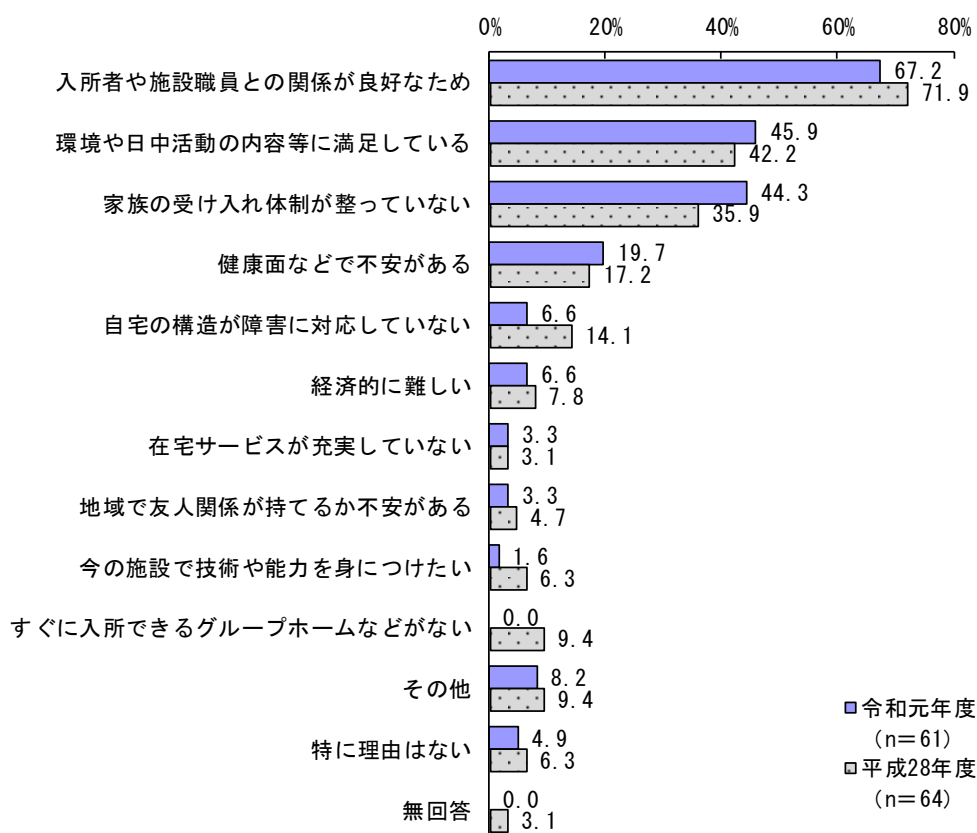
“関東(東京都を除く)”では、「施設を退所して、独立して生活したい」が8.7%と、他の地域に比べやや高くなっています。

入所年数別にみると、いずれの入所年数でも「現在の施設で生活したい」が5割以上で最も高くなっています。

(2) 現在の施設で生活し続けたい理由

問 20 で「現在の施設で生活したい」と回答された方にお聞きします。

問 20-1 現在の施設での生活を続けたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



現在の施設で生活し続けたい理由は、「入所者や施設職員との関係が良好なため」が 67.2% と 6 割半ばを超えて最も高く、次いで「環境や日中活動の内容等に満足している」が 45.9%、「家族の受け入れ体制が整っていない」が 44.3% と 4 割半ば前後で続いています。

一方、「特に理由はない」は 4.9% となっています。

平成 28 年度と比較すると、全体的な傾向はあまり変わりませんが、「家族の受け入れ体制が整っていない」が 8.4 ポイント上がっており、反対に「すぐに入所できるグループホームなどがない」が 9.4 ポイント、「自宅の構造が障害に対応していない」が 7.5 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)		n	入所者や施設職員との関係が良好なため	環境や日中活動の内容等に満足している	今の施設で技術や能力を身につけたい	すぐに入所できるグループホームがない	在宅サービスが充実していない	自宅の構造が障害に対応していない	健康面などで不安がある
全体		61	67.2	45.9	1.6	0.0	3.3	6.6	19.7
障害別	肢体不自由	24	62.5	50.0	0.0	0.0	0.0	12.5	29.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	62.5	62.5	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	視覚障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	内部障害	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
	知的障害	45	66.7	46.7	2.2	0.0	4.4	6.7	15.6
	発達障害	4	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	精神障害	5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	高次脳機能障害	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3

(単位：%)		n	経済的に難しい	家族の受け入れ体制が整っていない	地域で友人関係が持てるか不安がある	その他	特に理由はない	無回答
全体		61	6.6	44.3	3.3	8.2	4.9	0.0
障害別	肢体不自由	24	12.5	45.8	4.2	16.7	4.2	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	12.5	50.0	0.0	12.5	12.5	0.0
	視覚障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
	知的障害	45	4.4	46.7	4.4	8.9	4.4	0.0
	発達障害	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神障害	5	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、「精神障害」以外のいずれの障害でも「入所者や施設職員との関係が良好なため」が6割以上で最も高くなっています。

また、「環境や日中活動の内容等に満足している」や「家族の受け入れ体制が整っていない」も全体的に高い傾向にあり、回答数が10件以上の「肢体不自由」と「知的障害」ではどちらの項目も4割を超えて高くなっています。

【クロス集計】地域別・入所年数別

(単位：%)		n	入所者や施設職員との関係が良好なため	環境や日中活動の内容等に満足している	今の施設で技術や能力を身につけたい	すぐに入所できるグループホームがない	在宅サービスが充実していない	自宅の構造が障害に対応していない	健康面などで不安がある
全体		61	67.2	45.9	1.6	0.0	3.3	6.6	19.7
地域別	文京区内	17	70.6	47.1	5.9	0.0	5.9	11.8	17.6
	23区内（文京区を除く）	9	77.8	44.4	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2
	東京都（23区内を除く）	10	70.0	60.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0
	関東（東京都を除く）	16	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8
	関東以外	8	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
入所年数別	1年未満	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	1年以上～3年未満	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年以上～5年未満	15	73.3	46.7	6.7	0.0	6.7	13.3	20.0
	5年以上～10年未満	9	44.4	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10年以上～20年未満	7	85.7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6
	20年以上～30年未満	10	50.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	40.0
	30年以上	13	84.6	76.9	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7

(単位：%)		n	経済的に難しい	家族の受け入れ体制が整っていない	地域で友人関係が持てるか不安がある	その他	特に理由はない	無回答
全体		61	6.6	44.3	3.3	8.2	4.9	0.0
地域別	文京区内	17	5.9	47.1	5.9	11.8	0.0	0.0
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	33.3	0.0	0.0	11.1	0.0
	東京都（23区内を除く）	10	0.0	40.0	10.0	20.0	0.0	0.0
	関東（東京都を除く）	16	12.5	43.8	0.0	6.3	6.3	0.0
	関東以外	8	12.5	50.0	0.0	0.0	12.5	0.0
入所年数別	1年未満	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1年以上～3年未満	3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
	3年以上～5年未満	15	6.7	46.7	6.7	13.3	0.0	0.0
	5年以上～10年未満	9	11.1	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0
	10年以上～20年未満	7	0.0	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0
	20年以上～30年未満	10	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	30年以上	13	7.7	46.2	0.0	0.0	0.0	0.0

地域別にみると、いずれの地域でも「入所者や施設職員との関係が良好なため」が5割以上で最も高くなっています。

また、「環境や日中活動の内容等に満足している」や「家族の受け入れ体制が整っていない」はいずれの地域でも3割以上で高くなっています。

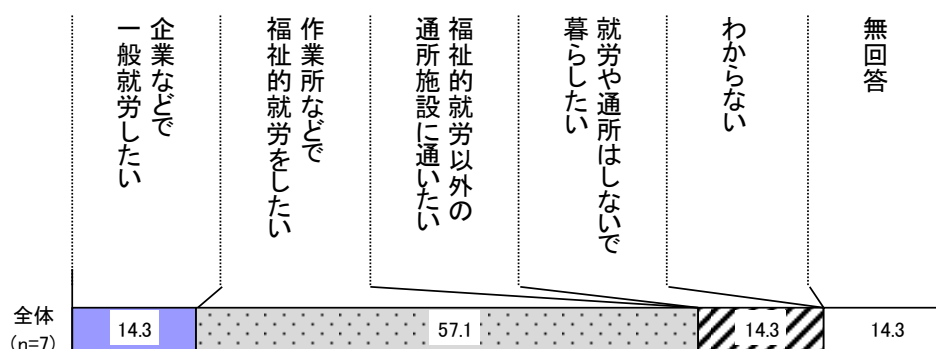
入所年数別にみると、いずれの入所年数でも「入所者や施設職員との関係が良好なため」が4割以上で最も高くなっています。

また、「環境や日中活動の内容等に満足している」や「家族の受け入れ体制が整っていない」はいずれの入所年数でも2割以上で高くなっています。

(3) 施設退所後の暮らし方の希望

問 20 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。

問 20-2 地域でどのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇はひとつ)

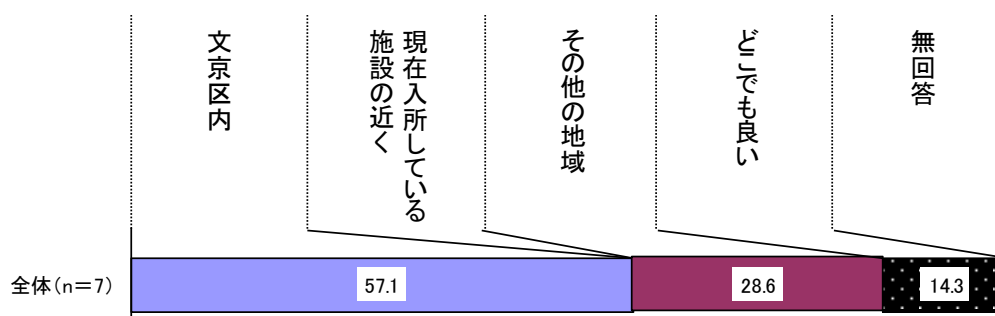


施設退所後、地域での暮らし方の希望については、「作業所などで福祉的就労をしたい」が 57.1%と半数を超えています。

(4) 施設退所後の居住地の希望

問 20 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。

問 20-3 退所後はどの地域で暮らしたいと思いますか。(〇はひとつ)

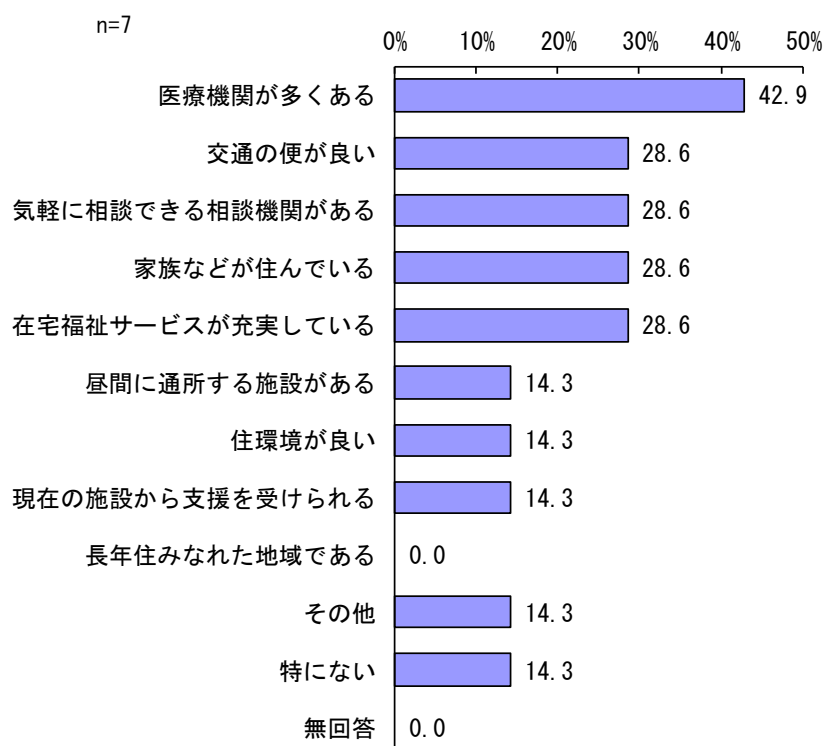


施設退所後の居住地の希望については、「文京区内」が 57.1%と半数を超えています。

(5) 施設退所後に地域に望むこと

問 20 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。

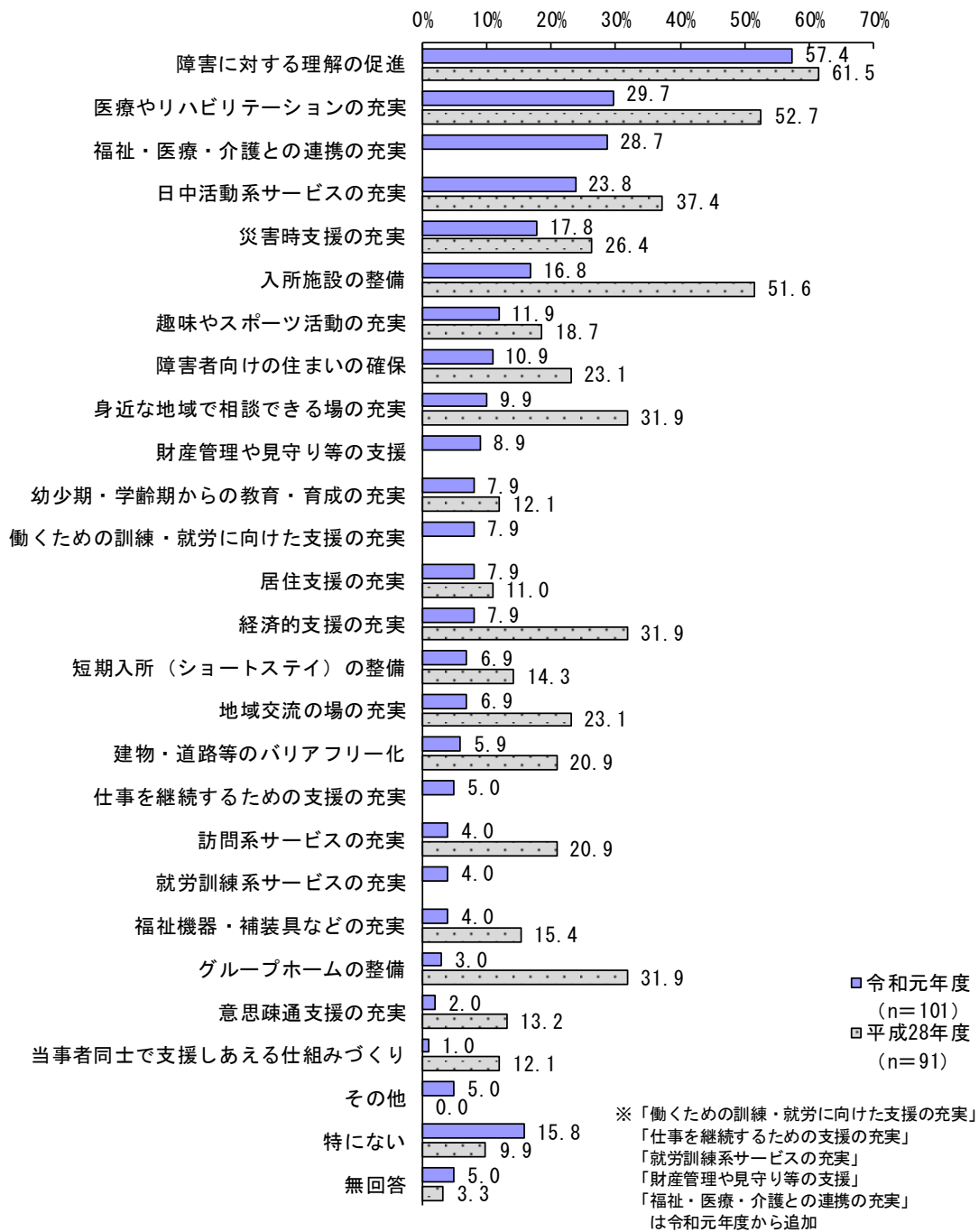
問 20-4 退所後に暮らす地域にのぞむことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



施設退所後、居住地域に望むことは、「医療機関が多くある」が 42.9%と最も高く、次いで「交通の便が良い」、「気軽に相談できる相談機関がある」、「家族などが住んでいる」、「在宅福祉サービスが充実している」がいずれも 28.6%と続いています。

(6) 地域で安心して暮らすために必要な施策

問 21 障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「障害に対する理解の促進」が57.4%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「医療やリハビリテーションの充実」が29.7%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が28.7%、「日中活動系サービスの充実」が23.8%と続いています。

平成28年度と比較すると、追加項目があったこともあり、「その他」と「特にない」以外のいずれの項目も大きく下がっています。

【クロス集計】 障害別

(単位: %)	n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
全体	101	57.4	29.7	7.9	7.9	5.0	9.9	4.0
障害別								
肢体不自由	31	71.0	54.8	3.2	19.4	3.2	12.9	3.2
音声・言語・そしゃく機能障害	10	50.0	50.0	0.0	10.0	0.0	20.0	10.0
視覚障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	75.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
内部障害	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	79	54.4	26.6	6.3	6.3	5.1	8.9	3.8
発達障害	12	75.0	25.0	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0
精神障害	7	42.9	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	3	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0

(単位: %)	n	日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等)の充実	就労訓練系サービス(就労移行支援・就労継続支援等)の充実	短期入所(ショートステイ)の整備	意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備
全体	101	23.8	4.0	6.9	2.0	4.0	3.0	16.8
障害別								
肢体不自由	31	16.1	3.2	3.2	3.2	9.7	6.5	19.4
音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	40.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
内部障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
知的障害	79	26.6	5.1	6.3	2.5	3.8	1.3	20.3
発達障害	12	41.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	25.0
精神障害	7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
難病(特定疾病)	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位: %)	n	障害者向けの住まいの確保	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実
全体	101	10.9	7.9	5.9	1.0	11.9	8.9	7.9
障害別								
肢体不自由	31	9.7	9.7	0.0	0.0	12.9	6.5	12.9
音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	20.0
視覚障害	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0
内部障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
知的障害	79	11.4	7.6	6.3	1.3	11.4	11.4	6.3
発達障害	12	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	8.3	16.7
精神障害	7	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	28.6	14.3
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

(単位: %)	n	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	その他	特になし	無回答
全体	101	17.8	6.9	28.7	5.0	15.8	5.0
障害別							
肢体不自由	31	38.7	12.9	35.5	0.0	6.5	6.5
音声・言語・そしゃく機能障害	10	40.0	0.0	30.0	0.0	10.0	20.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
知的障害	79	16.5	2.5	26.6	5.1	17.7	5.1
発達障害	12	8.3	0.0	50.0	8.3	0.0	8.3
精神障害	7	28.6	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	3	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、「視覚障害」、「内部障害」、「精神障害」以外のいずれの障害でも、「障害に対する理解の促進」が5割以上で最も高くなっています。

また、「医療やリハビリテーションの充実」はいずれの障害でも2割以上で高くなっています。

“発達障害”では、「日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等）の充実」が41.7%と4割を超えて他の障害と比べ高くなっています。

【クロス集計】地域別

(単位:%)		n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービス（居宅介護・重度訪問介護・同行援護等）の充実
全体		101	57.4	29.7	7.9	7.9	5.0	9.9	4.0
地域別	文京区内	28	50.0	17.9	7.1	3.6	3.6	7.1	3.6
	23区内（文京区を除く）	9	77.8	22.2	11.1	0.0	22.2	0.0	11.1
	東京都（23区内を除く）	20	75.0	45.0	20.0	20.0	5.0	20.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	43.5	26.1	4.3	4.3	4.3	17.4	0.0
	関東以外	17	58.8	41.2	0.0	11.8	0.0	0.0	5.9

(単位:%)		n	日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等）の充実	就労訓練系サービス（就労移行支援・就労継続支援等）の充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援（手話通訳者・要約筆記者派遣）の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備
全体		101	23.8	4.0	6.9	2.0	4.0	3.0	16.8
地域別	文京区内	28	21.4	0.0	0.0	3.6	7.1	3.6	17.9
	23区内（文京区を除く）	9	55.6	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0	22.2
	東京都（23区内を除く）	20	20.0	10.0	0.0	5.0	5.0	5.0	25.0
	関東（東京都を除く）	23	13.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	13.0
	関東以外	17	29.4	0.0	11.8	0.0	5.9	5.9	11.8

(単位:%)		n	障害者向けの住まいの確保	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実
全体		101	10.9	7.9	5.9	1.0	11.9	8.9	7.9
地域別	文京区内	28	3.6	10.7	0.0	3.6	7.1	21.4	0.0
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
	東京都（23区内を除く）	20	10.0	5.0	10.0	0.0	15.0	0.0	25.0
	関東（東京都を除く）	23	30.4	0.0	13.0	0.0	8.7	13.0	8.7
	関東以外	17	5.9	11.8	5.9	0.0	17.6	0.0	5.9

(単位:%)		n	災害時支援の充実	地域交流場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	その他	特になし	無回答
全体		101	17.8	6.9	28.7	5.0	15.8	5.0
地域別	文京区内	28	35.7	7.1	25.0	0.0	35.7	3.6
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	11.1	22.2	0.0	22.2	0.0
	東京都（23区内を除く）	20	20.0	0.0	35.0	5.0	0.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	8.7	4.3	26.1	4.3	8.7	13.0
	関東以外	17	0.0	5.9	41.2	17.6	11.8	0.0

地域別にみると、いずれの地域でも「障害に対する理解の促進」が4割以上で最も高くなっています。

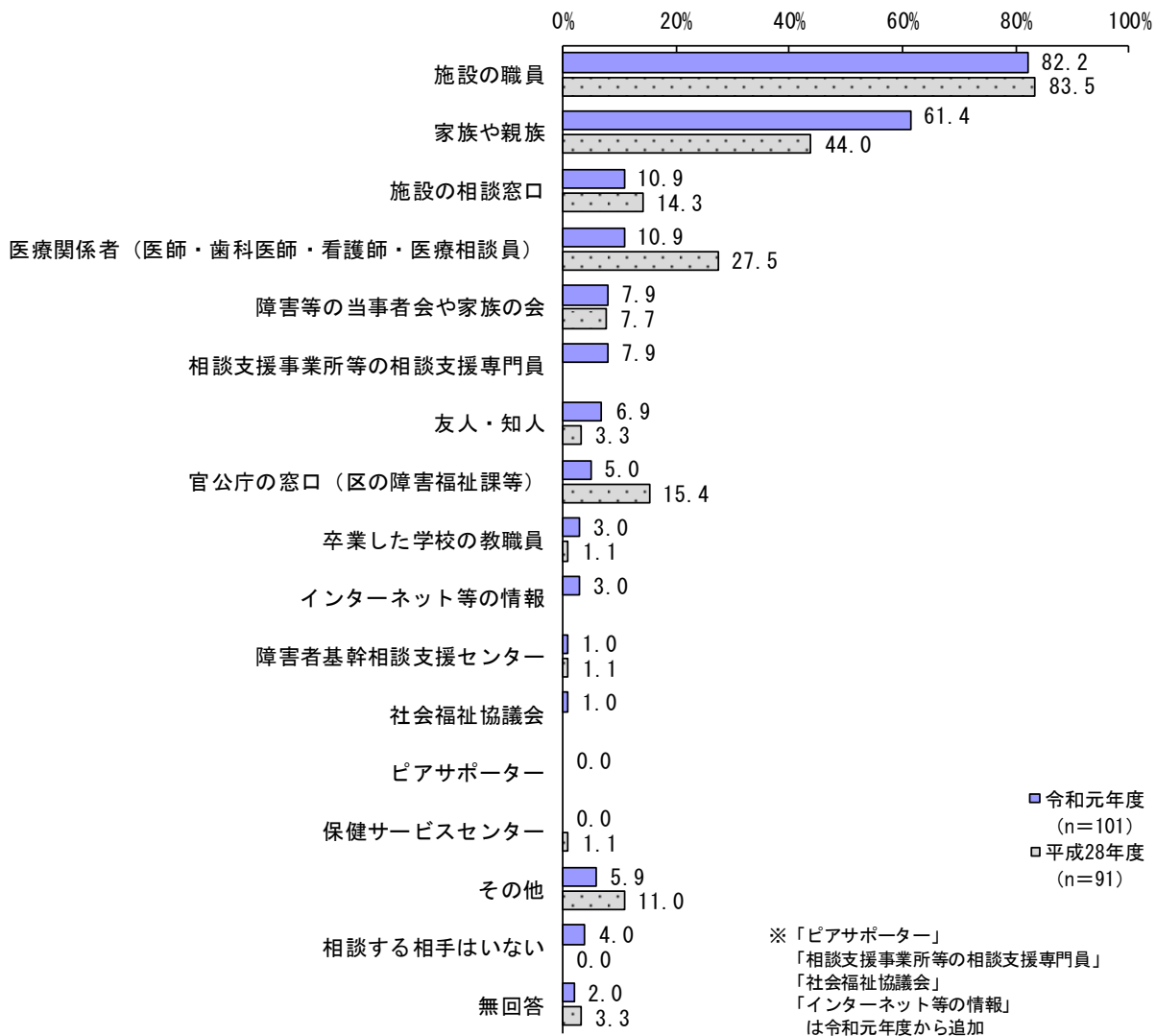
また、「福祉・医療・介護との連携の充実」はいずれの地域でも2割以上で高くなっています。

“関東（東京都を除く）”では、「障害者向けの住まいの確保」が30.4%と3割で他の地域と比べ高くなっています。

6 相談や福祉の情報について

(1) 困ったときの相談相手

問 22 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)



困ったときの相談相手は、「施設の職員」が82.2%と8割を超えて最も高く、次いで「家族や親族」が61.4%、「施設の相談窓口」と「医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」がともに10.9%と続いており、それ以外の項目は1割を切っています。

一方、「相談する相手がない」は4.0%となっています。

平成28年度と比較すると、最も高い「施設の職員」はともに8割強とほぼ変化がありません。

また、「医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が16.6ポイント、「官公庁の窓口(区の障害福祉課等)」が10.4ポイント、平成28年度より大きく下がっており、反対に「家族や親族」が17.4ポイント大きく上がっています。

【クロス集計】 障害別

(単位：%)	n	家族や親族	施設の職員	施設の相談窓口	友人・知人	ピアサポーター	卒業した学校の教職員
全体	101	61.4	82.2	10.9	6.9	0.0	3.0
障害別							
肢体不自由	31	71.0	64.5	12.9	12.9	0.0	9.7
音声・言語・そしゃく機能障害	10	60.0	50.0	20.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	75.0	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	79	62.0	88.6	10.1	6.3	0.0	2.5
発達障害	12	58.3	91.7	25.0	0.0	0.0	0.0
精神障害	7	57.1	100.0	0.0	14.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0

(単位：%)	n	障害等の当事者会や家族の会	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	官公庁の窓口（区の障害福祉課等）	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター
全体	101	7.9	7.9	10.9	5.0	0.0	1.0
障害別							
肢体不自由	31	19.4	16.1	32.3	16.1	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	10	30.0	10.0	30.0	20.0	0.0	0.0
視覚障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
知的障害	79	7.6	6.3	7.6	3.8	0.0	1.3
発達障害	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障害	7	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0

(単位：%)	n	社会福祉協議会	インターネット等の情報	その他	相談する相手はいない	無回答
全体	101	1.0	3.0	5.9	4.0	2.0
障害別						
肢体不自由	31	3.2	9.7	6.5	6.5	3.2
音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	20.0	0.0	20.0	10.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
知的障害	79	1.3	2.5	6.3	2.5	1.3
発達障害	12	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
精神障害	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害も「家族や親族」と「施設の職員」が最も高く、回答数が10件以上の“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では「家族や親族」が6割以上、“知的障害”と“発達障害”では「施設の職員」が9割前後と最も高くなっています。

【クロス集計】地域別・入所年数別

(単位:%)		n	家族や親族	施設の職員	施設の相談窓口	友人・知人	ピアサポーター	卒業した学校の教職員
全体		101	61.4	82.2	10.9	6.9	0.0	3.0
地域別	文京区内	28	82.1	78.6	17.9	7.1	0.0	0.0
	23区内(文京区を除く)	9	66.7	88.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	東京都(23区内を除く)	20	55.0	70.0	15.0	10.0	0.0	15.0
	関東(東京都を除く)	23	52.2	87.0	13.0	4.3	0.0	0.0
	関東以外	17	41.2	94.1	0.0	5.9	0.0	0.0
入所年数別	1年未満	3	66.7	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	1年以上～3年未満	3	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
	3年以上～5年未満	27	77.8	81.5	14.8	11.1	0.0	0.0
	5年以上～10年未満	12	58.3	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10年以上～20年未満	13	53.8	76.9	15.4	7.7	0.0	15.4
	20年以上～30年未満	17	35.3	88.2	0.0	5.9	0.0	0.0
	30年以上	21	57.1	90.5	19.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)		n	障害等の当事者会や家族の会	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)	官公庁の窓口(区の障害福祉課等)	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター
全体		101	7.9	7.9	10.9	5.0	0.0	1.0
地域別	文京区内	28	17.9	0.0	17.9	7.1	0.0	3.6
	23区内(文京区を除く)	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	東京都(23区内を除く)	20	10.0	10.0	15.0	10.0	0.0	0.0
	関東(東京都を除く)	23	4.3	13.0	8.7	4.3	0.0	0.0
	関東以外	17	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
入所年数別	1年未満	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	1年以上～3年未満	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	3年以上～5年未満	27	18.5	0.0	18.5	7.4	0.0	3.7
	5年以上～10年未満	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10年以上～20年未満	13	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0	0.0
	20年以上～30年未満	17	5.9	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0
	30年以上	21	9.5	4.8	4.8	9.5	0.0	0.0

(単位:%)		n	社会福祉協議会	インターネット等の情報	その他	相談する相手はいない	無回答
全体		101	1.0	3.0	5.9	4.0	2.0
地域別	文京区内	28	3.6	7.1	10.7	7.1	0.0
	23区内(文京区を除く)	9	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	東京都(23区内を除く)	20	0.0	0.0	5.0	5.0	0.0
	関東(東京都を除く)	23	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3
	関東以外	17	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0
入所年数別	1年未満	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1年以上～3年未満	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年以上～5年未満	27	3.7	7.4	11.1	7.4	0.0
	5年以上～10年未満	12	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3
	10年以上～20年未満	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20年以上～30年未満	17	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0
	30年以上	21	0.0	4.8	4.8	4.8	0.0

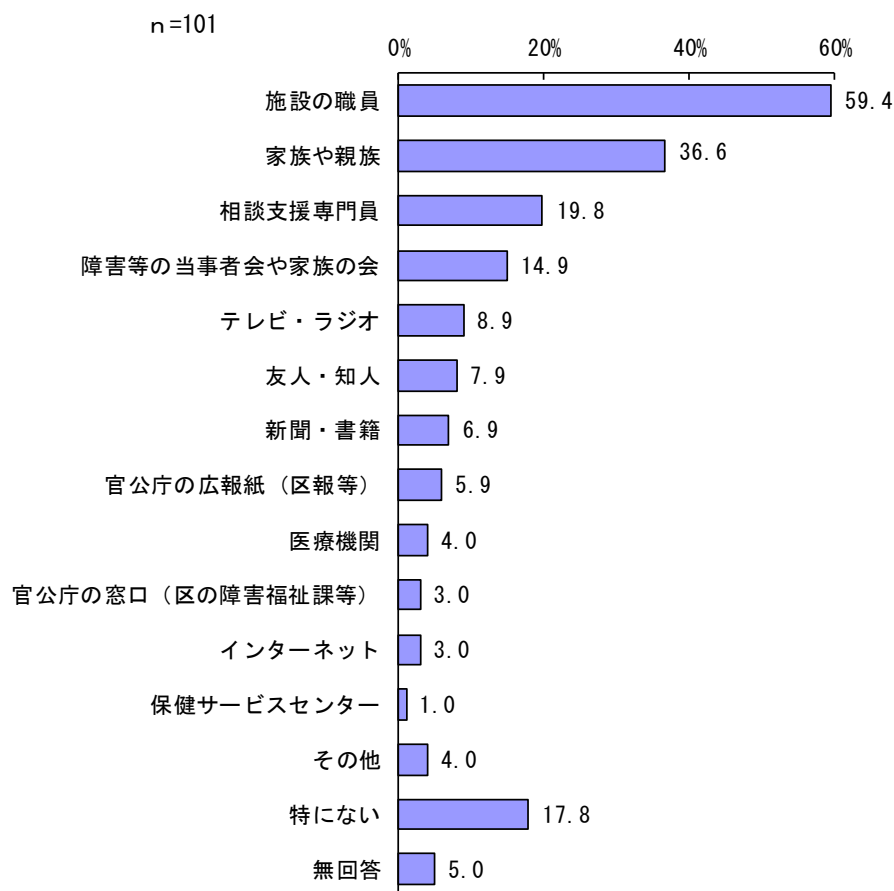
地域別にみると、“文京区内”では「家族や親族」が82.1%と8割を超えて最も高くなっています。それ以外の地域では「施設の職員」が7割以上で最も高く、“文京区内”でも78.6%と高くなっています。

入所年数別にみると、“1年以上～3年未満”以外のいずれの入所年数でも「施設の職員」が7割を超えて最も高くなっています。

また、「家族や親族」はいずれの入所年数でも3割以上で高くなっています。

(2) 福祉情報の入手先

問 23 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)



福祉情報の入手先は、「施設の職員」が 59.4%と約6割で最も高く、次いで「家族や親族」が 36.6%、「相談支援員」が 19.8%と、人から情報を入手する傾向にあります。

一方、「特にない」は 17.8%と1割半ばを超えています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	家族や親族	相談支援 専門員	友人・知 人	官公庁の広 報紙(区報 等)	官公庁の窓 口(区の障 害福祉課 等)	保健サービ スセンター	障害等の当 事者会や家 族の会	テレビ・ラ ジオ
全体	101	36.6	19.8	7.9	5.9	3.0	1.0	14.9	8.9
障害別									
肢体不自由	31	48.4	25.8	12.9	6.5	9.7	3.2	25.8	9.7
音声・言語・そしゃく機能障害	10	40.0	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	50.0	20.0
視覚障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
聴覚・平衡機能障害	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0
内部障害	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
知的障害	79	35.4	19.0	7.6	7.6	2.5	0.0	16.5	11.4
発達障害	12	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
精神障害	7	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病(特定疾病)	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0

(単位:%)	n	インター ネット	新聞・ 書籍	医療機 関	施設の 職員	その他	特にな い	無回答
全体	101	3.0	6.9	4.0	59.4	4.0	17.8	5.0
障害別								
肢体不自由	31	6.5	6.5	12.9	64.5	3.2	12.9	6.5
音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	10.0	10.0	60.0	0.0	20.0	20.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	25.0	25.0	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0
内部障害	3	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3
知的障害	79	2.5	8.9	2.5	65.8	5.1	11.4	5.1
発達障害	12	8.3	0.0	0.0	33.3	0.0	41.7	16.7
精神障害	7	0.0	14.3	0.0	57.1	0.0	14.3	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0

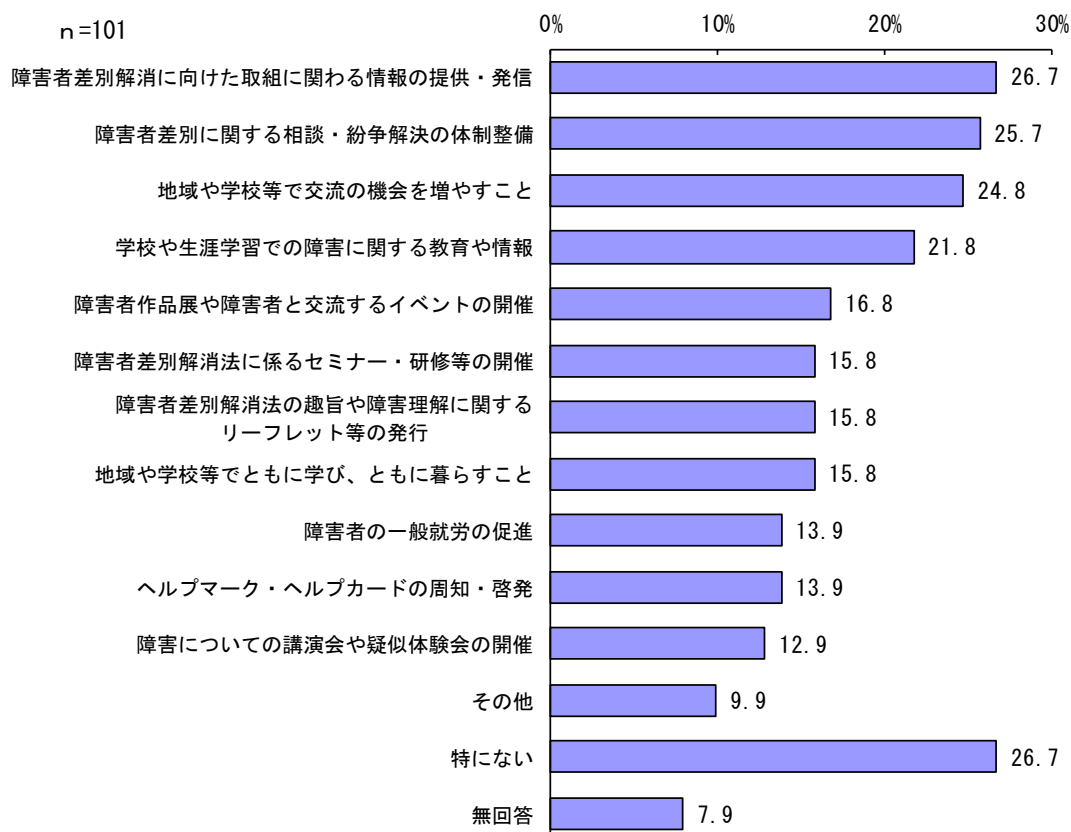
障害別にみると、“発達障害”と“高次脳機能障害”以外のいずれの障害でも、「施設の職員」が5割以上で最も高くなっています。

また、いずれの障害でも「障害等の当事者会や家族の会」と回答している方がいます。

7 差別解消について

(1) 差別解消に必要なこと

問 24 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



障害者への差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が26.7%、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」が25.7%、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が24.8%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が21.8%と2割台で高くなっています。

一方、「特にない」は26.7%と2割半ばを超えています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)		n	障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信	障害者差別解消に係るセミナー・研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
全体		101	25.7	26.7	15.8	15.8	16.8	24.8	15.8
障害別	肢体不自由	31	48.4	32.3	16.1	22.6	22.6	22.6	25.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	50.0	40.0	20.0	20.0	30.0	30.0	30.0
	視覚障害	1	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	75.0	50.0	25.0	25.0	50.0	50.0	25.0
	内部障害	3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
	知的障害	79	22.8	26.6	16.5	15.2	16.5	25.3	12.7
	発達障害	12	0.0	25.0	25.0	8.3	8.3	33.3	33.3
	精神障害	7	14.3	28.6	0.0	28.6	0.0	42.9	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0
	難病（特定疾病）	3	66.7	66.7	33.3	0.0	66.7	33.3	33.3

(単位：%)		n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	その他	特になし	無回答
全体		101	21.8	12.9	13.9	13.9	9.9	26.7	7.9
障害別	肢体不自由	31	29.0	19.4	25.8	9.7	9.7	19.4	9.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	50.0	20.0	30.0	10.0	0.0	30.0	10.0
	視覚障害	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	知的障害	79	21.5	11.4	12.7	15.2	10.1	29.1	7.6
	発達障害	12	41.7	16.7	8.3	16.7	16.7	8.3	16.7
	精神障害	7	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

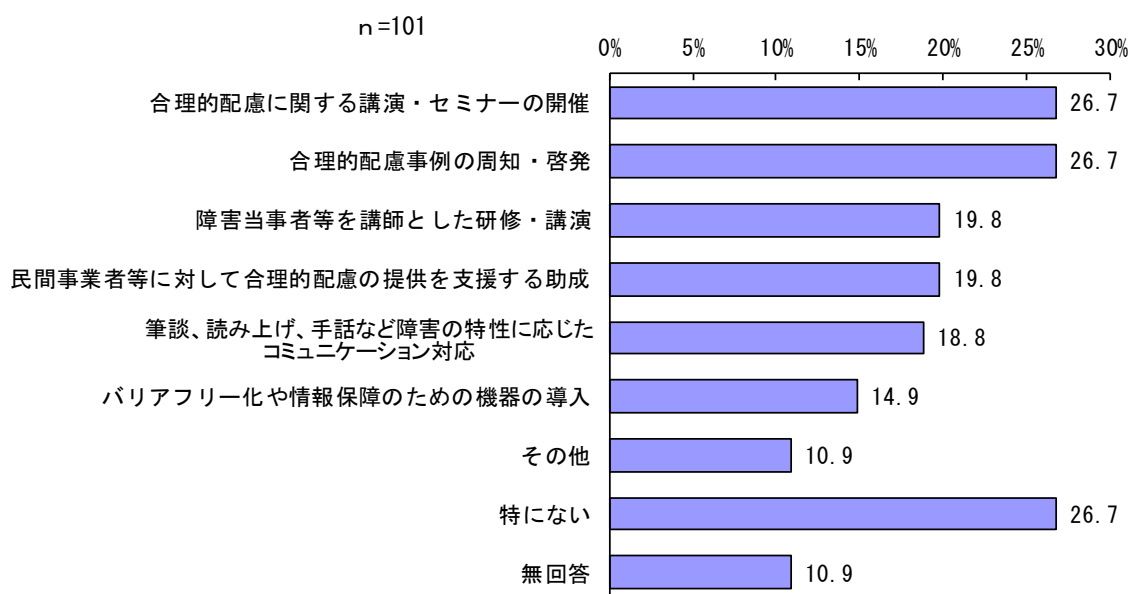
障害別にみると、回答数が10件以上の“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」が5割前後で最も高くなっています。

同じく回答数が10件以上の“知的障害”では、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が26.6%と最も高くなっています。また“肢体不自由”や“音声・言語・そしゃく機能障害”でも3割以上で高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”と“発達障害”では、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が最も高くなっています。また“肢体不自由”や“知的障害”でも2割以上で高くなっています。

(2) 合理的配慮に必要なこと

問 25 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」と「合理的配慮事例の周知・啓発」がともに 26.7%と 2 割半ばで最も高く、次いで「障害当事者等を講師とした研修・講演」と「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」がともに 19.8%、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が 18.8%と続いています。

一方、「特にない」は 26.7%と 2 割半ばを超えています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
全体	101	26.7	26.7	18.8	14.9	19.8
障害別						
肢体不自由	31	38.7	29.0	16.1	19.4	22.6
音声・言語・そしゃく機能障害	10	50.0	50.0	20.0	30.0	30.0
視覚障害	1	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0
内部障害	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
知的障害	79	24.1	29.1	19.0	16.5	17.7
発達障害	12	33.3	25.0	25.0	8.3	25.0
精神障害	7	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
難病（特定疾病）	3	66.7	0.0	33.3	0.0	66.7

(単位：%)	n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特になし	無回答
全体	101	19.8	10.9	26.7	10.9
障害別					
肢体不自由	31	22.6	9.7	19.4	9.7
音声・言語・そしゃく機能障害	10	40.0	0.0	30.0	10.0
視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	50.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	3	33.3	0.0	33.3	0.0
知的障害	79	20.3	11.4	29.1	11.4
発達障害	12	25.0	16.7	8.3	25.0
精神障害	7	0.0	0.0	28.6	28.6
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	66.7	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が10件以上の“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“発達障害”では、「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」が3割を超えて最も高くなっています。

同じく回答数が10件以上の“音声・言語・そしゃく機能障害”と“知的障害”では、「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も高く、“肢体不自由”や“音声・言語・そしゃく機能障害”でも2割以上で高くなっています。

また、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」では、“視覚障害”と“精神障害”以外のいずれの障害も2割以上で高くなっています。

9 自由意見

問 26 区障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 11 件ありました。「福祉」と「行政」についての意見がともに 27.3%と最も多くなっています。

主な意見は下記の通りです。

	総数	福祉	行政	障害理解	雇用・就労	アンケート	その他
自由意見	11	27.3	27.3	9.1	9.1	9.1	18.2

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1. 福祉（3件）

- ・グループホームへの地域移行が望まれているが、本当に支援の必要がある重度者には充実した入所施設でないと対応できない。数年後は入所困難な重度者が増えてくると思う。
- ・幼少の時より知的障がいがあり言葉、会話できず学校にも行けず、勤めたこともなく、親が面倒を見ていたが死亡後、兄弟で有料ホームの料金等負担している。先々、安価な文京区の施設に入居できるようにお願いしたい。

2. 行政（3件）

- ・区立でない障害者入所施設についても何らかの支援をしている場合（建物、設備などの安価な利用等）、その内容に第三者委員評価だけでなく直接に福祉課も把握してほしい。

3. 障害理解（1件）

- ・社会的格差に敏感な次世代は、自分以外のことに関心を持ち難く、障害者への関わりを持つ余裕もなく生きているように感じます。そういう社会情勢の中で、福祉政策を推進するご苦勞に心から感謝しています。幼少期から全世代にわたる合理的配慮やコミュニケーションの仕方、交流機会を増やして、障害があってもなくても当たり前を支え合って暮らせる地域であってほしいです。

4. アンケート（1件）

- ・施設に入所している知的障がい、発達障がいの利用者は自分からご意見、ご要望は言えない。施設職員が代筆したがほとんど書く事ができませんでした。

